

コマツ
2018年度 第3四半期(4月-12月)
決算説明会
【電話会議】

2019年1月31日(木)

コマツ出席者

執行役員CFO

執行役員経営管理部長

堀越 健

今吉 琢也

I. 2018年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要 <P3-P14>

- P4-6 : 2018年度第3四半期(10-12月)の概況
- P7-8 : 2018年度第3四半期(4-12月)の概況
- P9-11 : <建設機械・車両> 2018年度第3四半期(4-12月)の状況、KMC*の概況
- P12 : <リテールファイナンス> 2018年度第3四半期(4-12月)の状況
- P13 : <産業機械他> 2018年度第3四半期(4-12月)の状況
- P14 : 連結貸借対照表

II. 2018年度の見通し <P15-P25>

- P16 : 2018年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
- P17-22 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
- P23-24 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
- P25 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

参考資料 <P26-P34>

- P27-31 : 四半期毎の状況
- P32-34 : BBレシオ〔受注／売上指数(6ヶ月)〕

* KMCは、Komatsu Mining Corp. (旧ジョイ・グローバル社) の略称。

I. 2018年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要

損益計算書の組替表示について

2018年度から米国の新年金会計基準(※)を適用したことにより、損益計算書において、勤務費用以外の退職給付費用を「その他の収益(費用)」に計上しています(従来はセグメント利益に計上)。これに伴い2017年度の数値も遡及して組替表示しています。内容は下表の通りです。

※会計基準アップデート2017-07「期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示の改善」

新年金会計基準適用による組替え

(金額単位：億円)		2017年 4-6月	2017年 7-9月	2017年 10-12月	2018年 1-3月	2017年度 年間
	従来コマツ	1	1	1	1	4
	KMC	▲8	▲8	▲8	▲9	▲33
	建設機械・車両	▲7	▲7	▲7	▲8	▲29
	リテールファイナンス	0	0	0	0	0
	産業機械他	0	▲0	0	▲1	▲1
セグメント利益		▲7	▲7	▲7	▲9	▲30
営業利益		▲7	▲7	▲7	▲9	▲30
その他収益(▲費用)		7	7	7	9	30
税引前純利益		-	-	-	-	-

- ・ 連結売上高は前年同期比+8.3%増収の7,005億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+27.6%増益の955億円。売上高営業利益率は同+2.0ポイント増の13.6%。
- ・ 純利益は前年同期比+10.3%増益の588億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年10-12月			2018年10-12月			前年同期比	
	¥113.0/USD ¥133.2/EUR ¥17.0/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥113.5/USD ¥129.6/EUR ¥16.4/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	6,468	5,614	853	7,005	6,065	940	+537	+8.3%
セグメント利益	864	825	*2 38	971	894	*2 76	+107	+12.4%
その他の営業収益(▲費用)	▲115	▲117	1	▲16	▲15	▲0	+99	-
営業利益	748	708	*2 40	955	878	*2 76	+206	+27.6%
売上高営業利益率	11.6%	12.6%	4.7%	13.6%	14.5%	8.1%	+2.0ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36			▲100			▲64	-
税引前純利益	712			854			+142	+20.0%
当社株主に帰属する当期純利益	533			588			+55	+10.3%

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

	2017年10-12月	2018年10-12月
PPAによる償却費 ※	▲36億円	▲18億円
統合費用ほか	▲4億円	▲10億円
合計	▲41億円	▲28億円

*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益および営業利益には右記の一時費用の影響が含まれている。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+8.5%増収の6,453億円。セグメント利益は+11.5%増益の886億円。セグメント利益率は+0.3ポイント改善し、13.7%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+13.5%増収の167億円。セグメント利益は+16.3%増益の35億円。
- ・産業機械他部門の売上高は+8.0%増収の457億円。セグメント利益は+19.4%増益の51億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益率

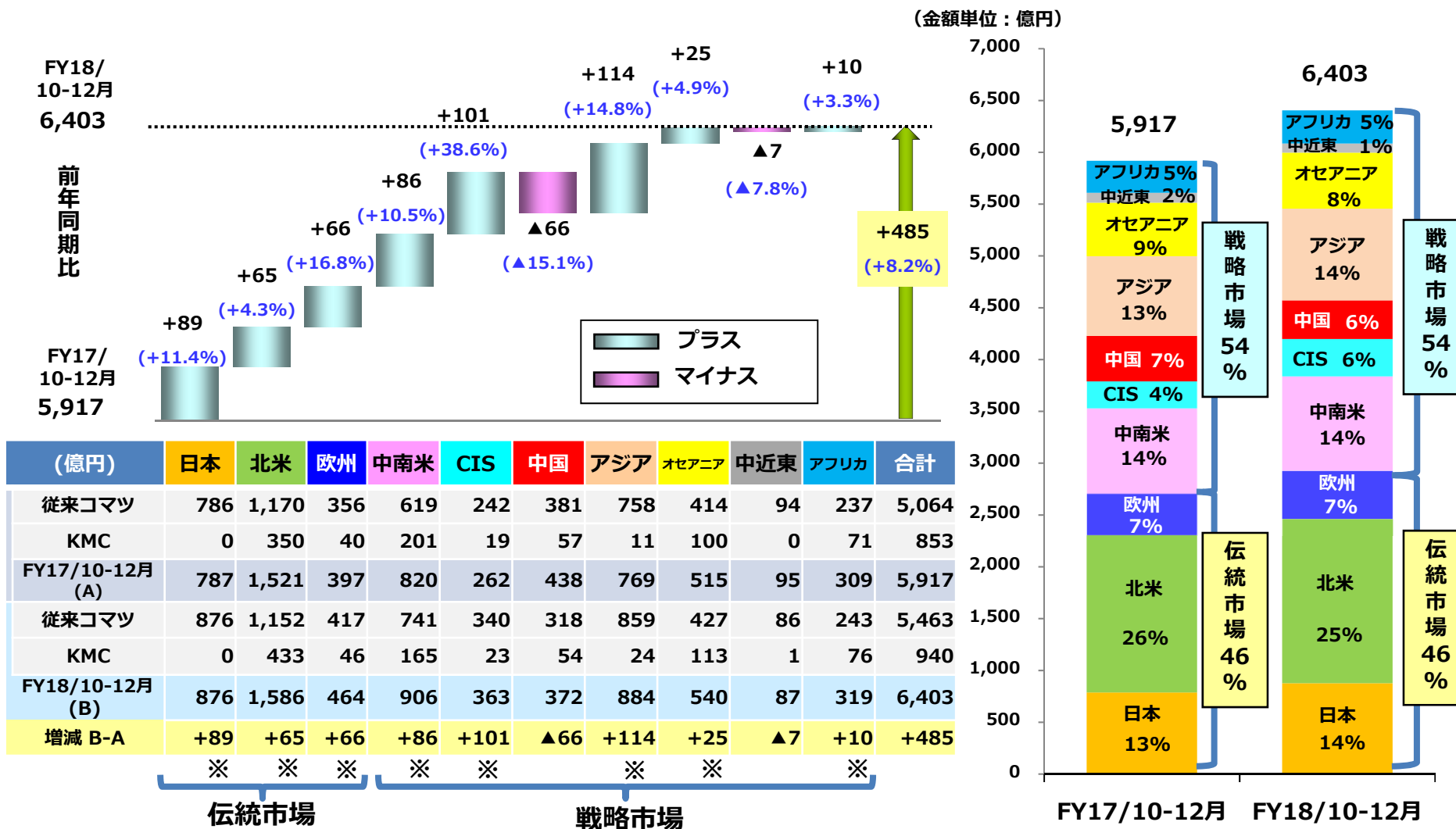
() : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年10-12月			2018年10-12月			前年同期比	
		従来コマツ	KMC		従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	6,468	5,614	853	7,005	6,065	940	+537	+8.3%
建設機械・車両	5,945 (5,917)	5,091 (5,064)	853 (853)	6,453 (6,403)	5,512 (5,463)	940 (940)	+507 (+485)	+8.5% (+8.2%)
リテールファイナンス	147 (130)	147 (130)	-	167 (151)	167 (151)	-	+19 (+20)	+13.5% (+15.6%)
産業機械他	423 (419)	423 (419)	-	457 (450)	457 (450)	-	+33 (+31)	+8.0% (+7.4%)
消去	▲47	▲47	-	▲71	▲71	-	▲24	-
セグメント利益	□ 13.4% 864	□ 14.7% 825	□ 4.5% 38	□ 13.9% 971	□ 14.8% 894	□ 8.2% 76	+107	+12.4%
建設機械・車両	□ 13.4% 794	□ 14.8% 755	□ 4.5% 38	□ 13.7% 886	□ 14.7% 809	□ 8.2% 76	+91	+11.5%
リテールファイナンス	□ 20.6% 30	□ 20.6% 30	-	□ 21.1% 35	□ 21.1% 35	-	+4	+16.3%
産業機械他	□ 10.2% 43	□ 10.2% 43	-	□ 11.3% 51	□ 11.3% 51	-	+8	+19.4%
消去または全社	▲4	▲4	-	▲1	▲1	-	+2	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
アジア・CIS・日本などでの売上増加、販売価格差等により増収増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益。
- 産業機械他
自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことに加え、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加に伴い増収増益。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+8.2%増収の6,403億円。
- ・中国が減少したものの、アジア・CIS・日本などでの売上高が大きく伸長。
- ・戦略市場の比率は54%。



※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・ 連結売上高は前年同期比+11.8%増収の2兆186億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+59.0%増益の2,958億円。売上高営業利益率は同+4.4ポイント増の14.7%。
- ・ 純利益は前年同期比+18.8%増益の1,841億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年4-12月			2018年4-12月			前年同期比	
	¥111.7/USD ¥128.2/EUR ¥16.6/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥111.0/USD ¥129.8/EUR ¥16.6/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,058	15,694	2,363	20,186	17,436	2,749	+2,128	+11.8%
セグメント利益(▲損失)	1,986	2,163	*2 ▲176	2,962	2,636	*2 326	+975	+49.1%
その他の営業収益(▲費用)	▲126	▲127	0	▲4	▲4	0	+122	-
営業利益(▲損失)	1,860	2,036	*2 ▲175	2,958	2,632	*2 326	+1,098	+59.0%
売上高営業利益率(▲損失率)	10.3%	13.0%	▲7.4%	14.7%	15.1%	11.9%	+4.4*ポイント	-
その他の収益(▲費用)	293			▲178			▲471	-
税引前純利益	2,153			2,779			+626	+29.1%
当社株主に帰属する当期純利益	1,550			1,841			+291	+18.8%

*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

	2017年4-12月	2018年4-12月
PPAによる償却費 ※	▲367億円	▲63億円
統合費用ほか	▲41億円	▲20億円
合計	▲408億円	▲83億円

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

2018年度 第3四半期(4-12月)の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は+11.3%増収の1兆8,458億円。セグメント利益は+49.9%増益の2,725億円。セグメント利益率は+3.8ポイント改善し、14.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+0.4%増収の461億円。セグメント利益は+46.6%増益の131億円。
- ・産業機械他部門の売上高は+17.5%増収の1,427億円。セグメント利益は+38.8%増益の126億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

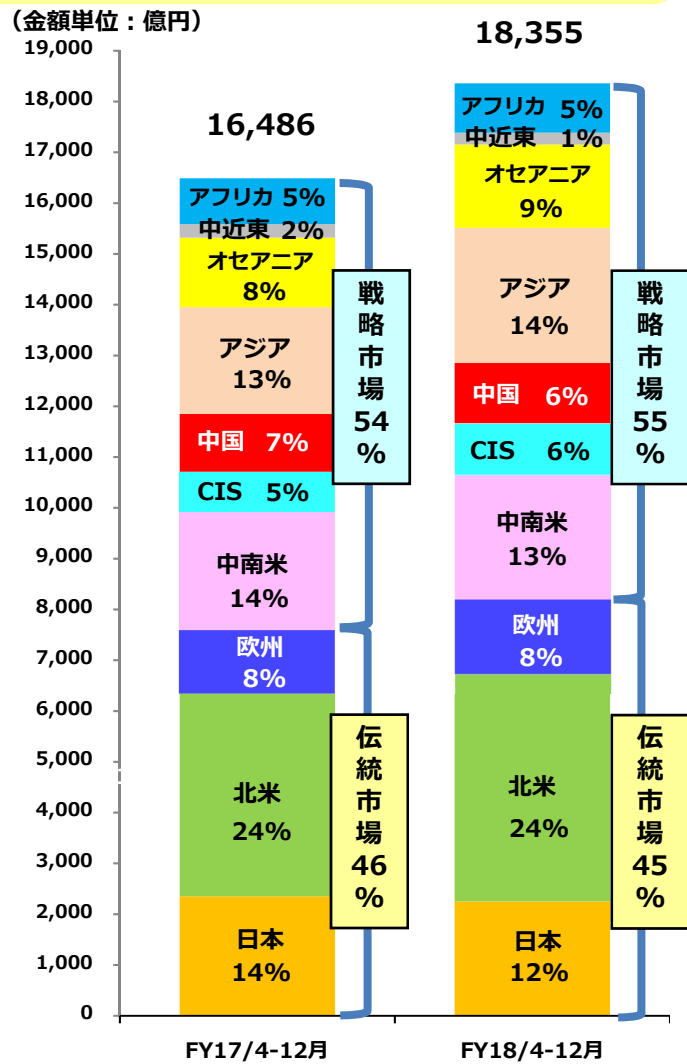
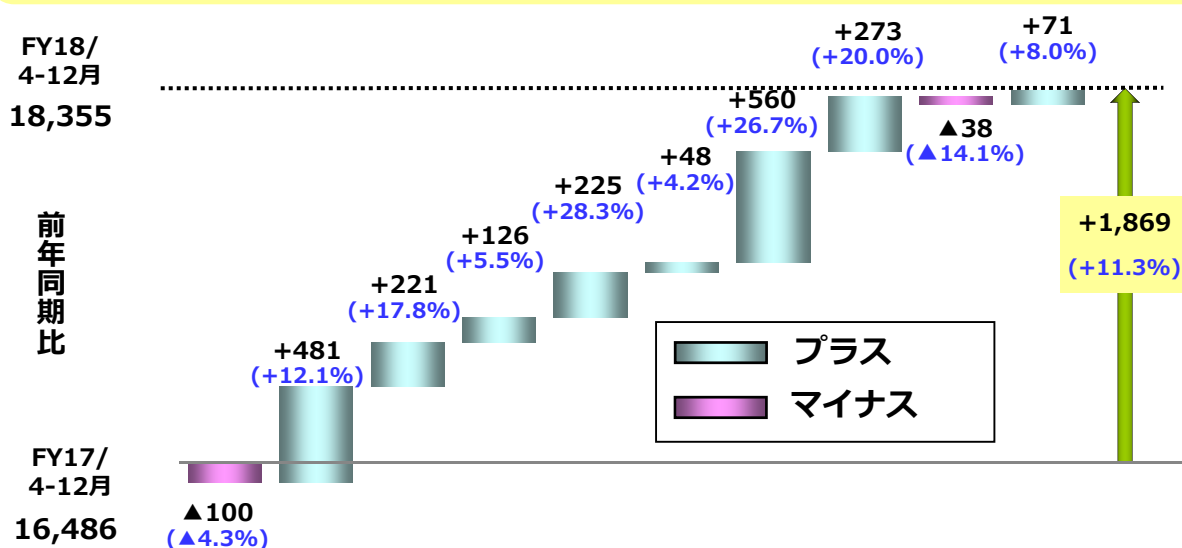
金額単位：億円	2017年4-12月			2018年4-12月			前年同期比	
		従来コマツ	KMC		従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	18,058	15,694	2,363	20,186	17,436	2,749	+2,128	+11.8%
建設機械・車両	16,589 (16,486)	14,226 (14,123)	2,363 (2,363)	18,458 (18,355)	15,709 (15,606)	2,749 (2,749)	+1,869 (+1,869)	+11.3% (+11.3%)
リテールファイナンス	459 (367)	459 (367)	-	461 (417)	461 (417)	-	+1 (+49)	+0.4% (+13.6%)
産業機械他	1,214 (1,204)	1,214 (1,204)	-	1,427 (1,412)	1,427 (1,412)	-	+212 (+208)	+17.5% (+17.3%)
消去	▲206	▲206	-	▲162	▲162	-	+44	-
セグメント利益 (▲損失)	11.0% 1,986	13.8% 2,163	▲7.5% ▲176	14.7% 2,962	15.1% 2,636	11.9% 326	+975	+49.1%
建設機械・車両	11.0% 1,817	14.0% 1,994	▲7.5% ▲176	14.8% 2,725	15.3% 2,399	11.9% 326	+907	+49.9%
リテールファイナンス	19.5% 89	19.5% 89	-	28.4% 131	28.4% 131	-	+41	+46.6%
産業機械他	7.5% 91	7.5% 91	-	8.9% 126	8.9% 126	-	+35	+38.8%
消去または全社	▲11	▲11	-	▲20	▲20	-	▲8	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
北米・アジア・オセアニアなどでの売上増加により増収。物量の増加に加え、KMCの一時費用が減少したことで全体として増益。
- リテールファイナンス
前年同期にチリにおいてリース契約の中途解約による中古車売上があったことにより、売上高はほぼ横ばい。
2016年度に中国で計上した貸倒引当金の戻り益により増益。
- 産業機械他
自動車業界向けの工作機械の販売増加に加え、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの売上増加に伴い、増収増益。

2018年度 第3四半期(4-12月)の地域別売上高 (外部顧客向け)

- 外部顧客向け売上高は前年同期比+11.3%増収の1兆8,355億円。
- 日本・中近東を除くすべての地域で売上高が増加。特に、アジア・北米・オセアニアなどの売上高が大きく伸長。
- 戦略市場の比率は55%に上昇。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	2,352	3,005	1,132	1,776	758	1,017	2,071	1,059	269	679	14,123
KMC	0	990	111	544	37	121	29	307	1	219	2,363
FY17/ 4-12月 (A)	2,352	3,996	1,244	2,321	795	1,139	2,100	1,366	270	898	16,486
従来コマツ	2,251	3,237	1,352	1,890	952	1,068	2,600	1,301	228	722	15,606
KMC	0	1,240	113	557	67	118	59	338	4	248	2,749
FY18/ 4-12月 (B)	2,251	4,478	1,466	2,448	1,020	1,187	2,660	1,640	232	970	18,355
増減 B-A	▲100	+481	+221	+126	+225	+48	+560	+273	▲38	+71	+1,869

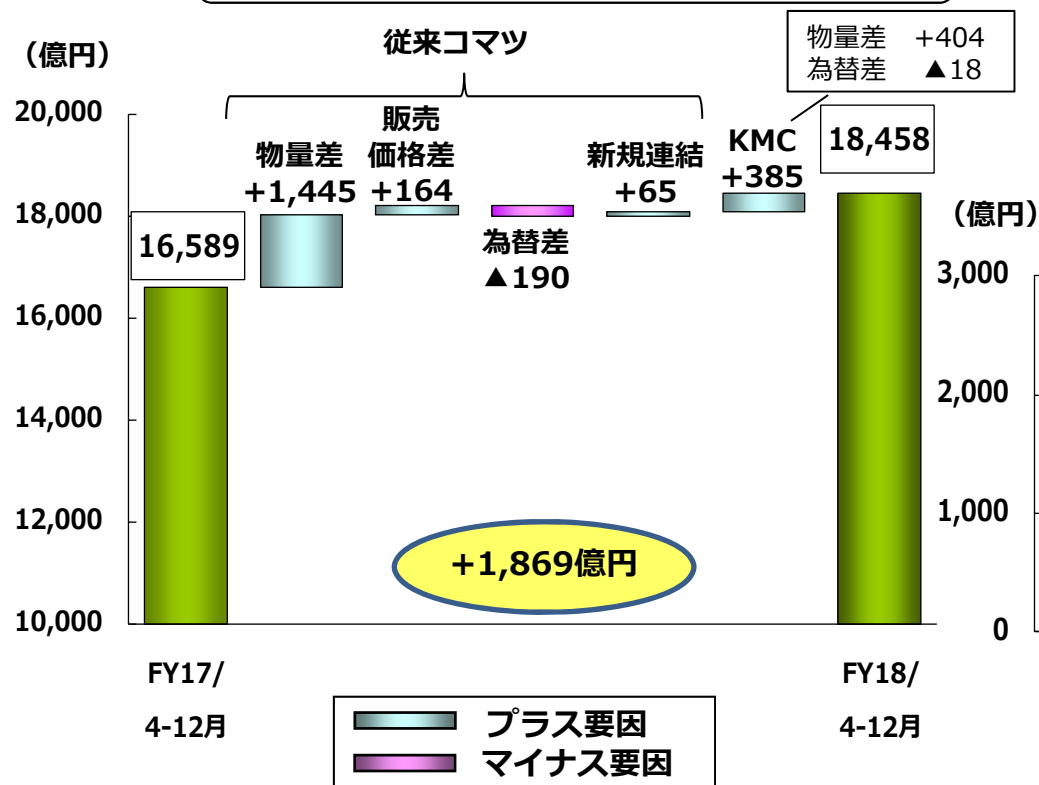
伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は物量の増加に加え、販売価格差等により、前年同期比+1,869億円の増収。
- ・セグメント利益は物量の増加、KMCの一時費用の減少等により+907億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+3.8ポイント増の14.8%。

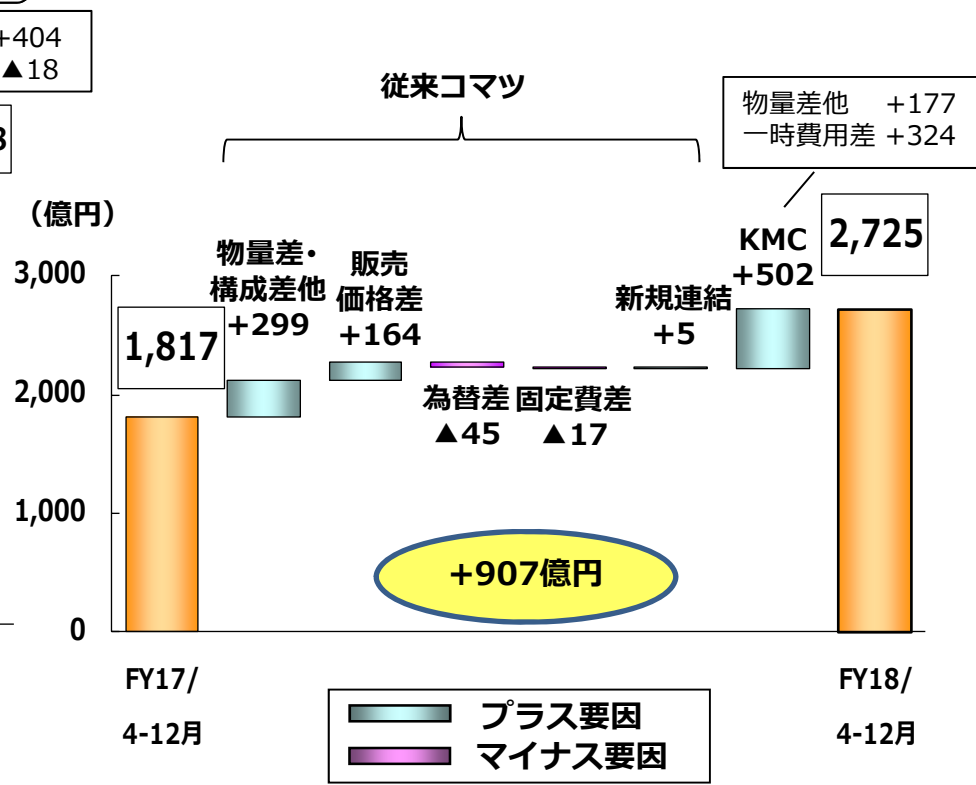
売上高
FY2017/4-12月 vs. FY2018/4-12月



¥111.7/USD
¥128.2/EUR
¥16.6/RMB

¥111.0/USD
¥129.8/EUR
¥16.6/RMB

セグメント利益
FY2017/4-12月 vs. FY2018/4-12月



11.0% ——— 売上高セグメント利益率 ——— 14.8%

- ・売上高(4-12月)は、前年同期比+16.3%増の2,749億円。
- ・一時費用除く営業利益(4-12月)は410億円、一時費用▲83億円を含む営業利益(4-12月)は326億円。

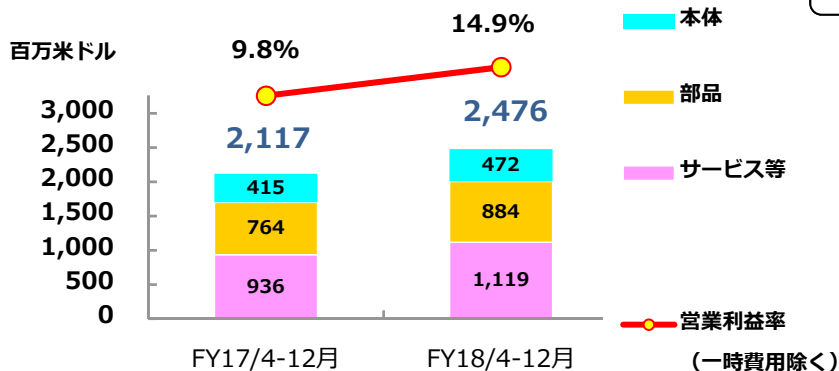
2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

(金額単位：億円)	2017年10-12月 (¥113.0/USD)		2018年10-12月 (¥113.5/USD)		前年同期比		2017年4-12月 (¥111.7/USD)		2018年4-12月 (¥111.0/USD)		前年同期比	
					増減	増減率			増減	増減率		
売上高	853	940	+86	+10.1%	2,363	2,749	+385	+16.3%				
本体	198	209	+11	+6.0%	464	524	+59	+12.9%				
部品	295	326	+31	+10.7%	854	981	+126	+14.9%				
サービス等	359	406	+47	+13.3%	1,044	1,242	+198	+19.0%				
営業利益 <一時費用除く>	9.5% 81	11.2% 105	+23	+29.0%	9.8% 232	14.9% 410	+177	+76.5%				
一時費用 (マイナスで表記)	▲41	▲28	+13	-	▲408	▲83	+324	-				
PPAによる償却費 ※1	▲36	▲18	+18	-	※2 ▲367	▲63	+303	-				
統合費用ほか	▲4	▲10	▲5	-	▲41	▲20	+21	-				
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	4.7% 40	8.1% 76	+36	-	▲7.4% ▲175	11.9% 326	+502	-				

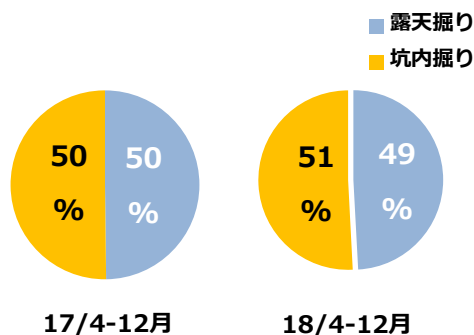
※1：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

※2：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円

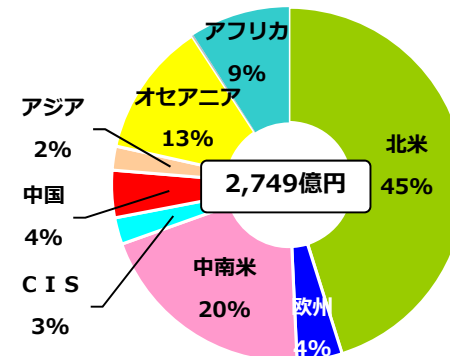
四半期別売上高・営業利益率の推移
(米ドルベース)



セグメント別売上高

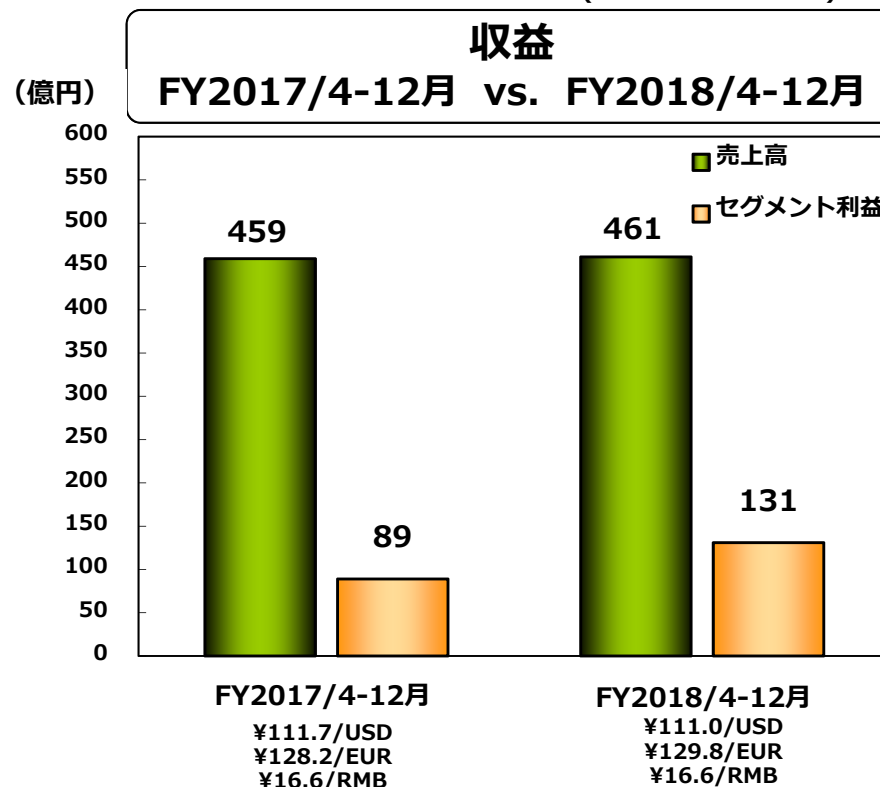
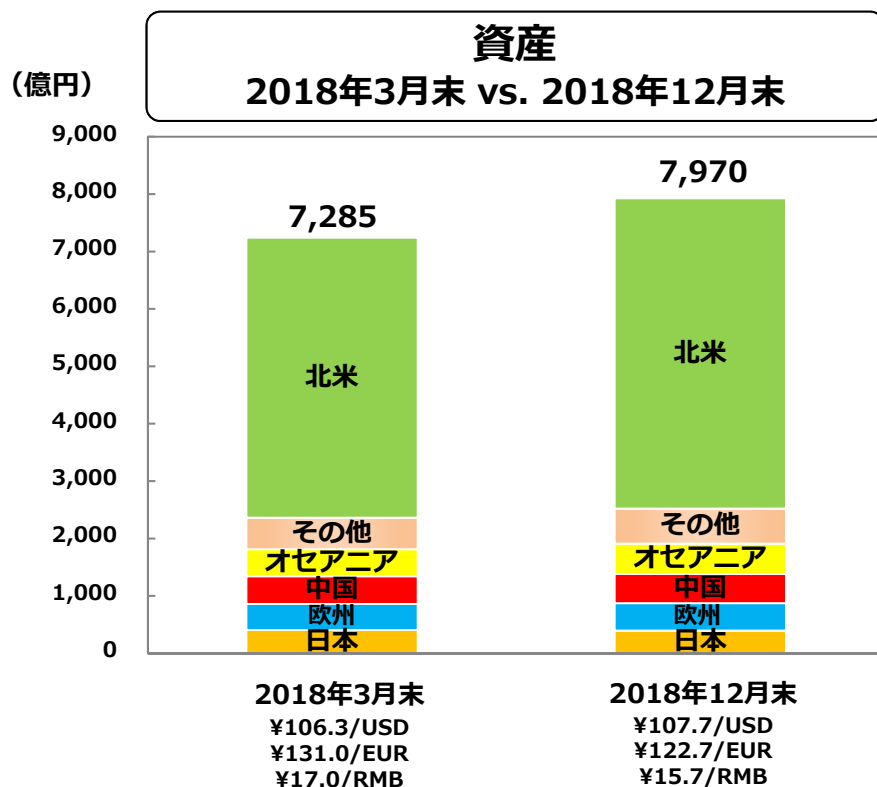


FY18/4-12月地域別売上高
(外部顧客向け)



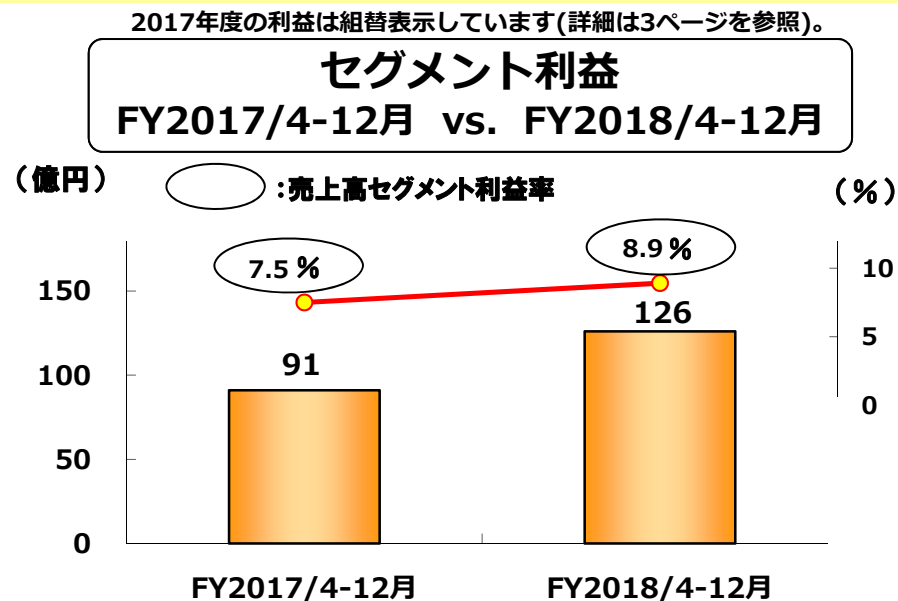
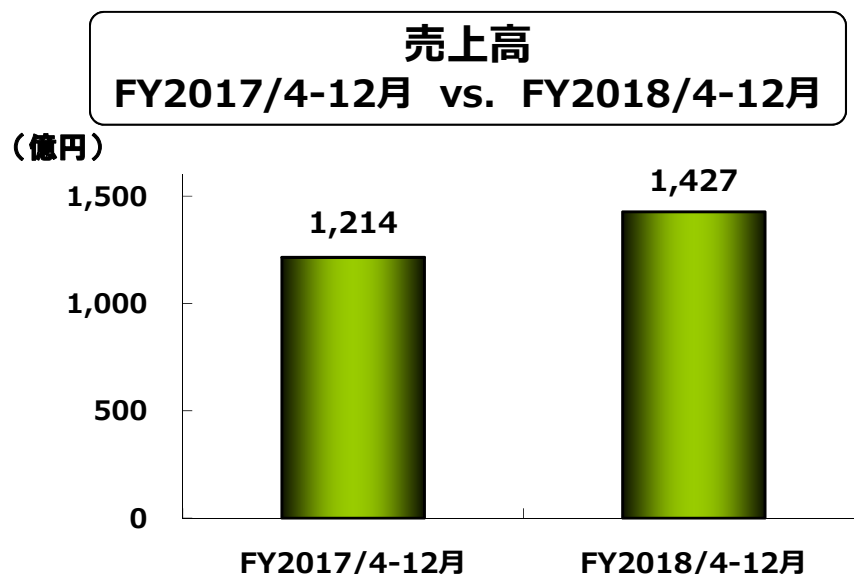
- ・資産は主に北米等における販売の増加により、前年度末比+685億円増加。
- ・売上高は北米での資産増加はあったものの、前年同期にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことにより、ほぼ横ばい。
- ・セグメント利益は、主に中国での貸倒引当金の戻り益と北米での販売増加等により増益。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。



金額単位：億円	2018/3E	2018/12E	2018/3E比
借入金	5,460	6,104	+644
ネットベースの借入金	5,426	6,056	+630
ネットD/Eレシオ	3.50	3.82	+0.32ポイント

- ・売上高は自動車業界向けの工作機械の販売増加に加え、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加により、前年同期比+17.5%増収の1,427億円。
- ・売上高セグメント利益率は8.9%。



売上高の内訳

(億円)	FY17/ 4-12月	FY18/ 4-12月	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	327	409	+81	+24.9%
コマツNTC	432	469	+36	+8.5%
ギガフォトン	272	316	+44	+16.5%
その他	183	231	+49	+27.0%
合計	1,214	1,427	+212	+17.5%

- ・総資産は主に棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+1,367億円の増加。
- ・株主資本比率は前年度末比▲0.5ポイント減の48.9%。

(金額単位：億円) ○:ネットD/Eレシオ	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥ 17.0/RMB	2018年12月末 ¥107.7/USD ¥122.7/EUR ¥ 15.7/RMB	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	1,468	1,505	+37
受取手形・売掛金(含む長期売上債権)	11,550	11,646	+96
棚卸資産	7,302	8,255	+953
有形固定資産	7,405	7,593	+187
その他資産	5,997	6,091	+93
資産合計	33,725	35,092	+1,367
支払手形・買掛金	3,035	2,556	▲479
借入金・社債 [b]	8,105	9,662	+1,556
その他負債	5,147	4,873	▲274
負債合計	16,289	17,092	+802
(株主資本比率)	(49.4%)	(48.9%)	(▲0.5ポイント)
株主資本	16,645	17,176	+531
非支配持分	790	824	+33
負債及び純資産合計	33,725	35,092	+1,367
ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]	○ 0.40 6,637	○ 0.47 8,156	+1,519
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	○ 0.08	○ 0.13	

Ⅱ. 2018年度の見通し

- ・これまで9カ月間の全社の業績（売上高・利益）は概ね昨年10月の公表値レベルで進捗していることから、年間の業績見通しは変更していない。（以下に昨年10月の公表値を掲載）

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

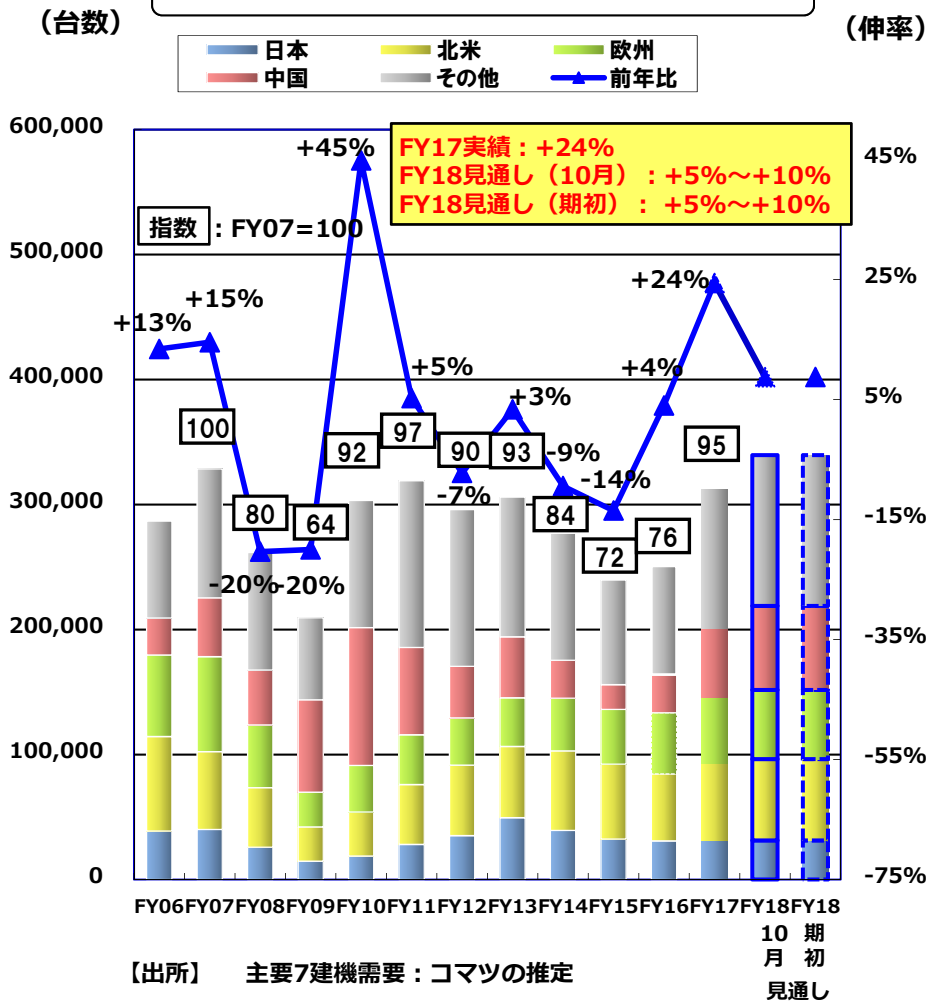
金額単位：億円	2017年度	2018年度		2018年度			前年比(B-A)		
	(A) ¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	見通し(10月) (B) ¥107.4/USD ¥126.4/EUR ¥16.3/RMB	従来コマツ *	KMC	見通し(期初) (C) ¥100.0/USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ *	KMC	増減	増減率
連結売上高	25,011	26,620	22,913	3,707	25,030	21,880	3,150	+1,608	+6.4%
セグメント利益	2,998	3,840	3,382	458	3,450	3,195	255	+842	+28.1%
その他の営業収益(▲費用)	▲313	▲30	▲30	-	▲60	▲60	-	+283	-
営業利益	2,685	3,810	3,352	458	3,390	3,135	255	+1,125	+41.9%
売上高営業利益率	10.7%	14.3%	14.6%	12.4%	13.5%	14.3%	8.1%	+3.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	233	▲190			▲190			▲423	-
税引前純利益	2,918	3,620			3,200			+702	+24.1%
当社株主に帰属する当期純利益	1,964	2,400			2,260			+436	+22.2%
ROE	12.1%	14.1%			13.4%			+2.0ポイント	
1株当たり配当金(円)	84円	102円			96円			+18円	
連結配当性向	40.3%	40.1%			40.1%				

* KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

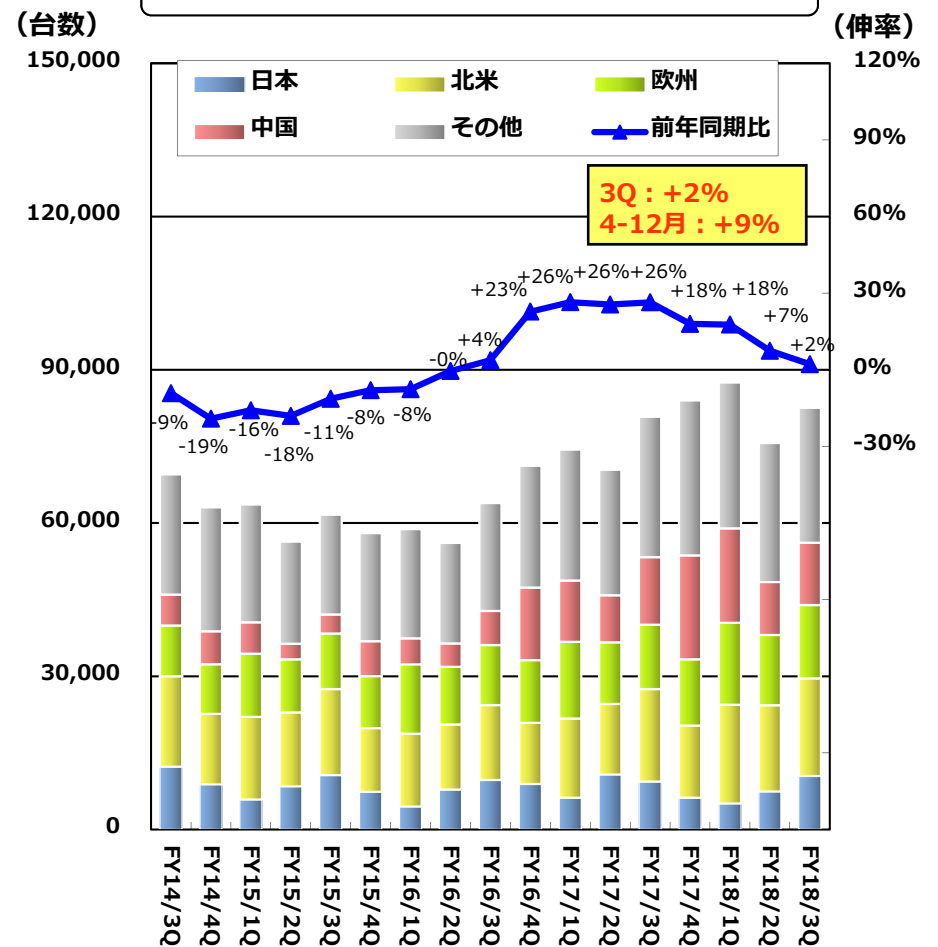
<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

・ 2018年第3四半期の需要は、前年同期比+2%。
 ・ 中国は減少したものの、北米、欧州の需要は引き続き伸長。

主要7建機 年度別需要推移



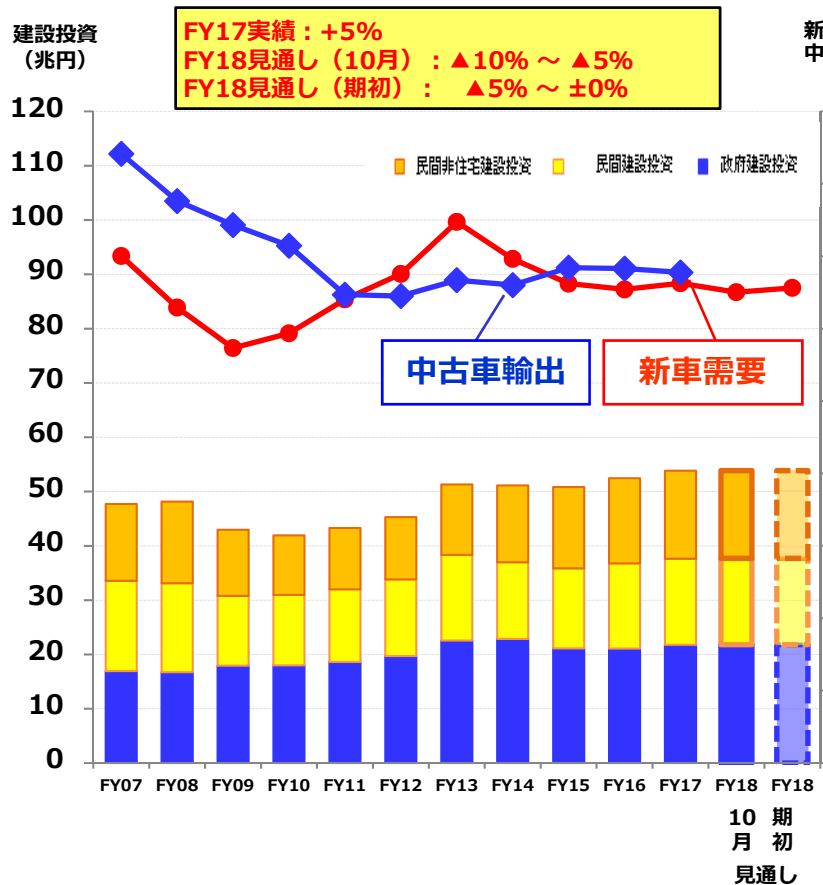
主要7建機 四半期別需要推移



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

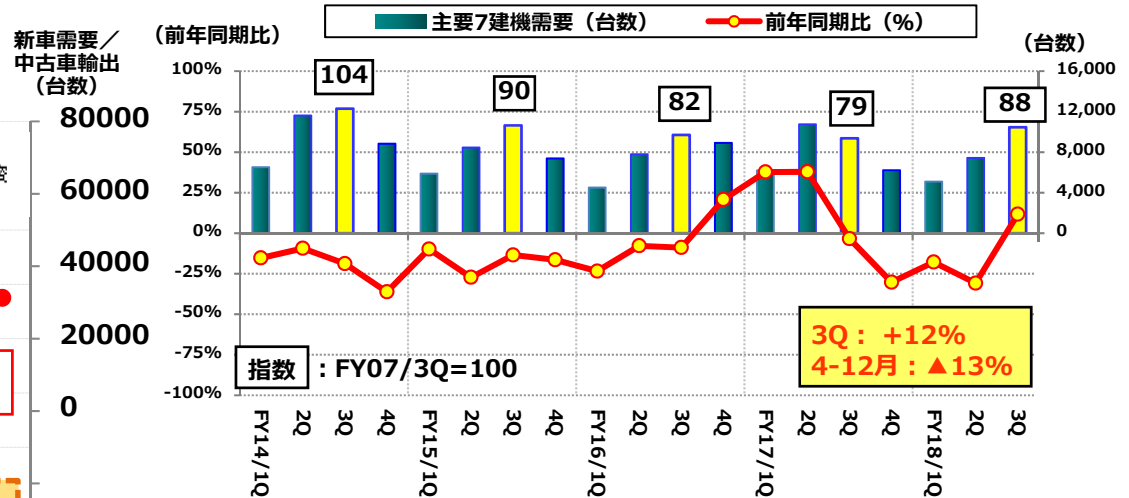
- ・ 2018年度第3四半期の需要は、前年同期比+12%。
- ・ 災害復興等によるレンタル需要の増加や、国内排ガス規制（2017年9月開始）による駆け込み需要の反動減に歯止めがかかり、需要が増加。

新車需要（主要7建機）と建設投資

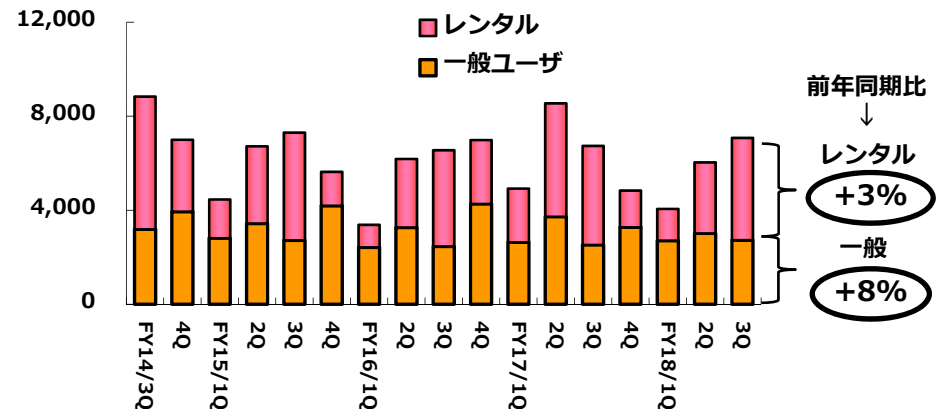


【出所】 建設投資：国土交通省／建設経済研究所
主要7建機需要：コマツの推定
中古車輸出力：コマツの推定

主要7建機 四半期別需要推移



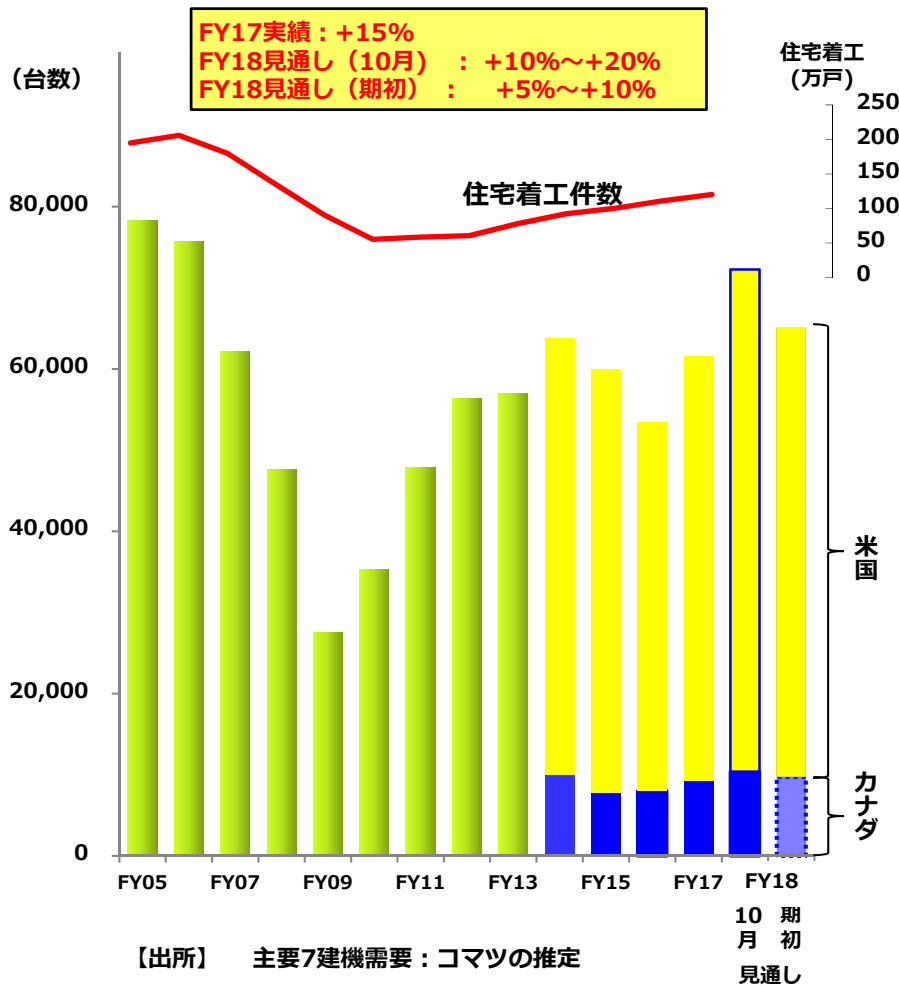
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



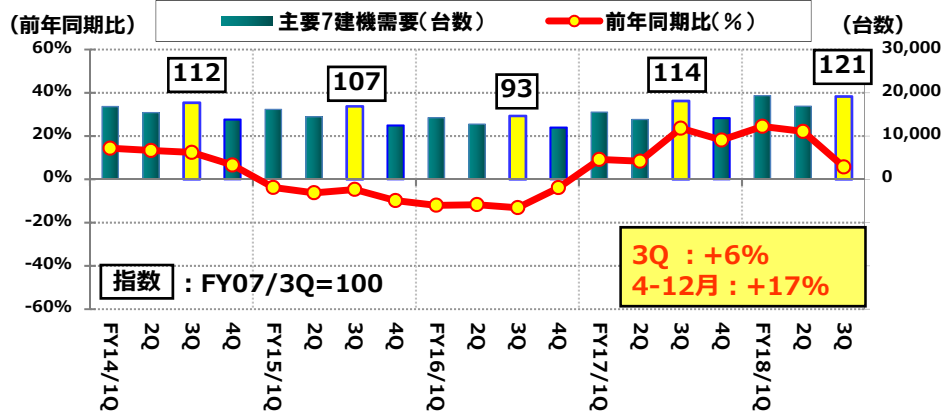
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

・ 2018年度第3四半期の需要は、前年同期比+6%。
 ・ 米国において、土木およびエネルギー関連向け、カナダは住宅・非住宅がともに堅調に推移。

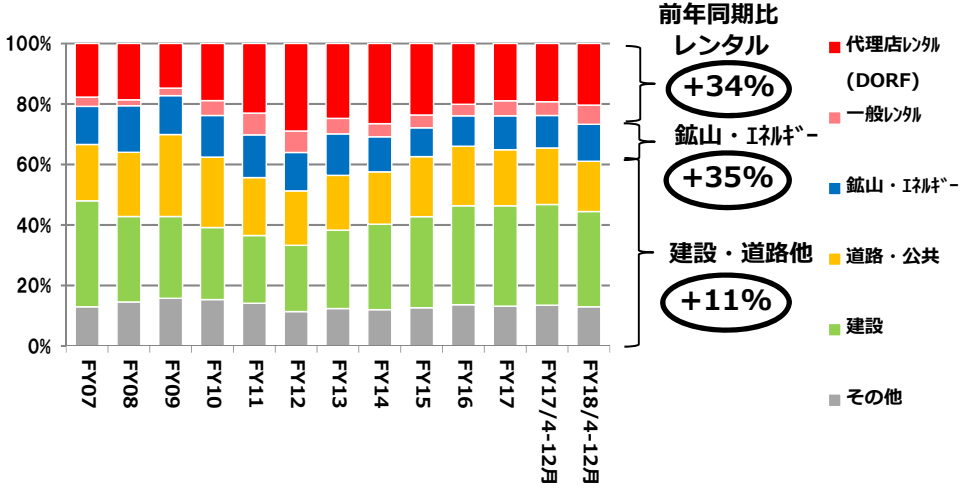
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



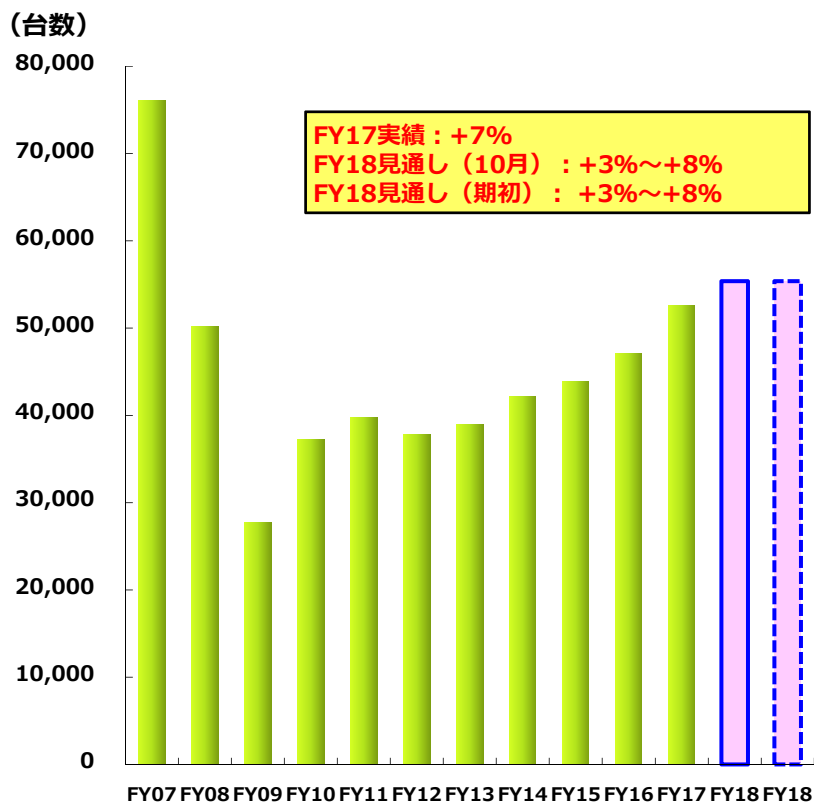
セグメント別需要構成比(台数ベース)



＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：③ 欧州

- ・ 2018年度第3四半期の需要は、前年同期比+14%。
- ・ 主要市場であるドイツ、イギリス、フランスが引き続き堅調に推移したことに加え、東欧の需要が伸長。

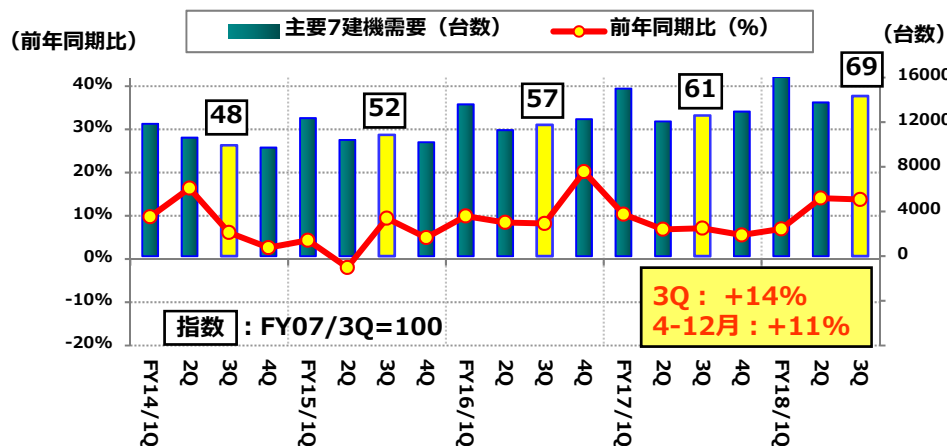
主要7建機 年度別需要推移



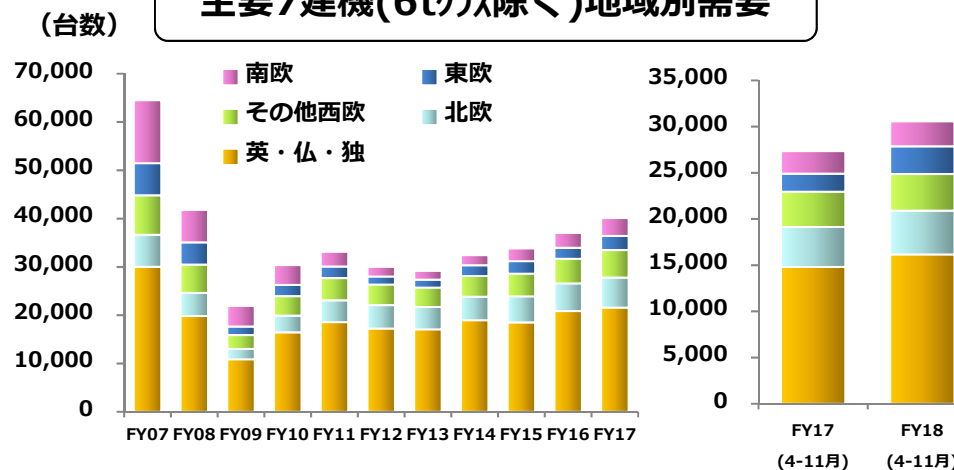
【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

10 期
月 初
見通し

主要7建機 四半期需要推移

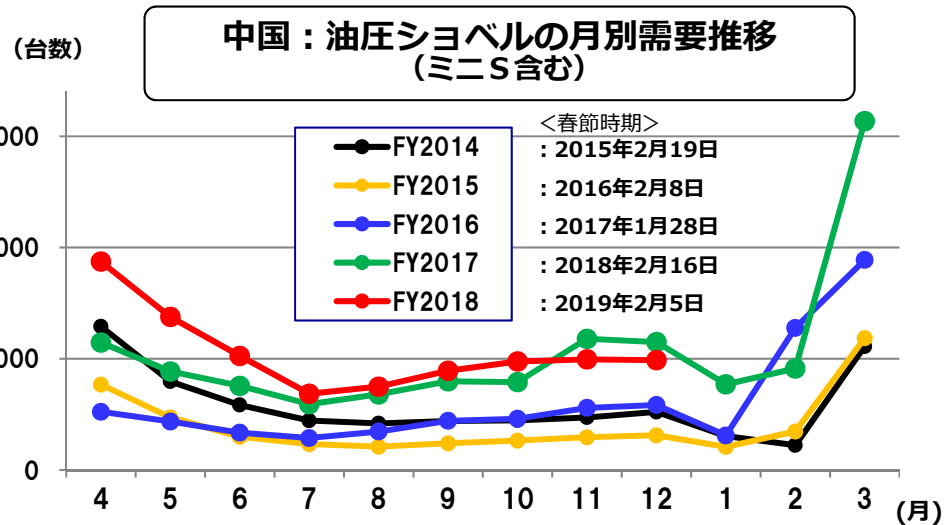
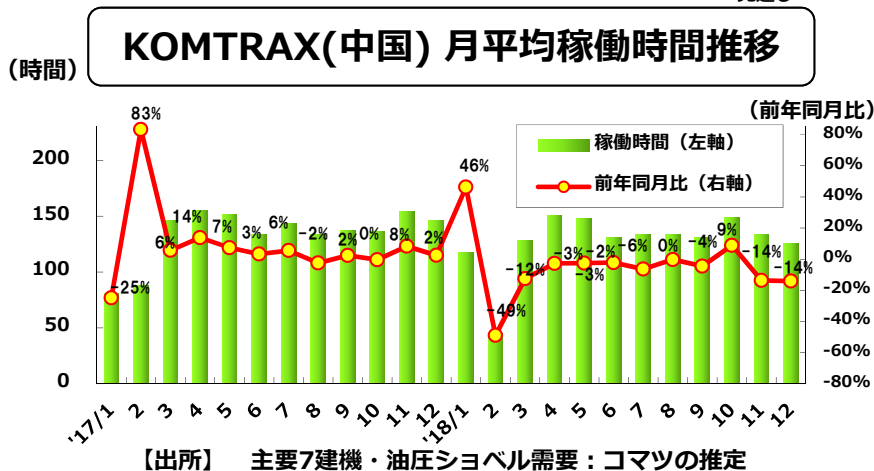
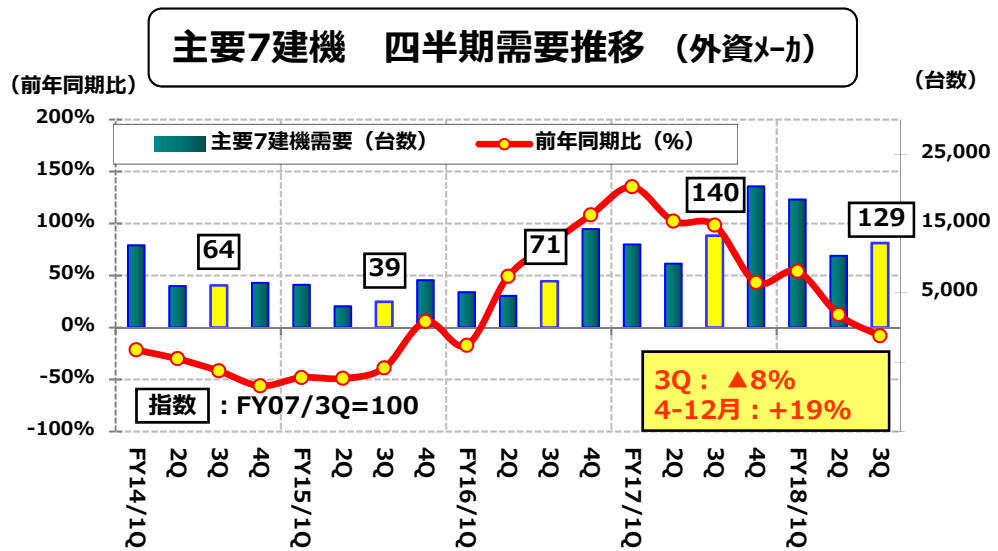
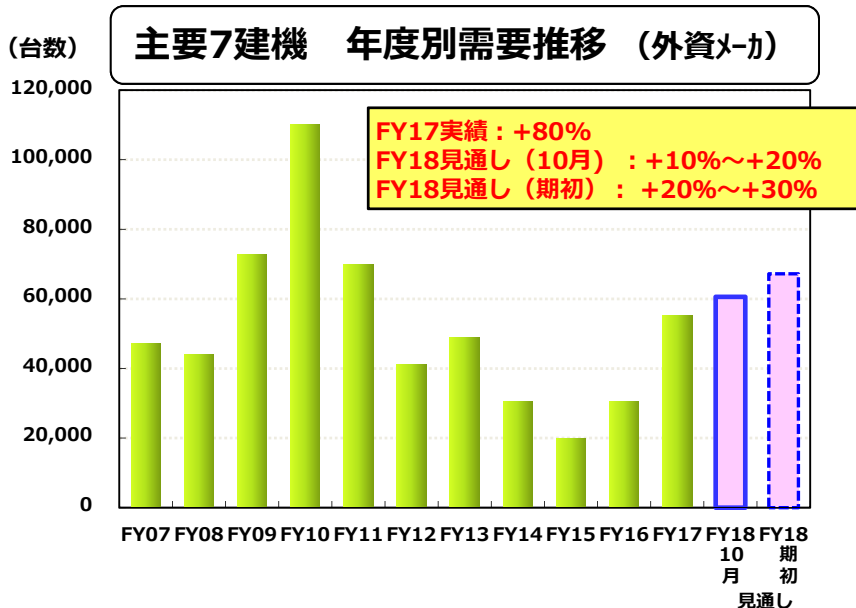


主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

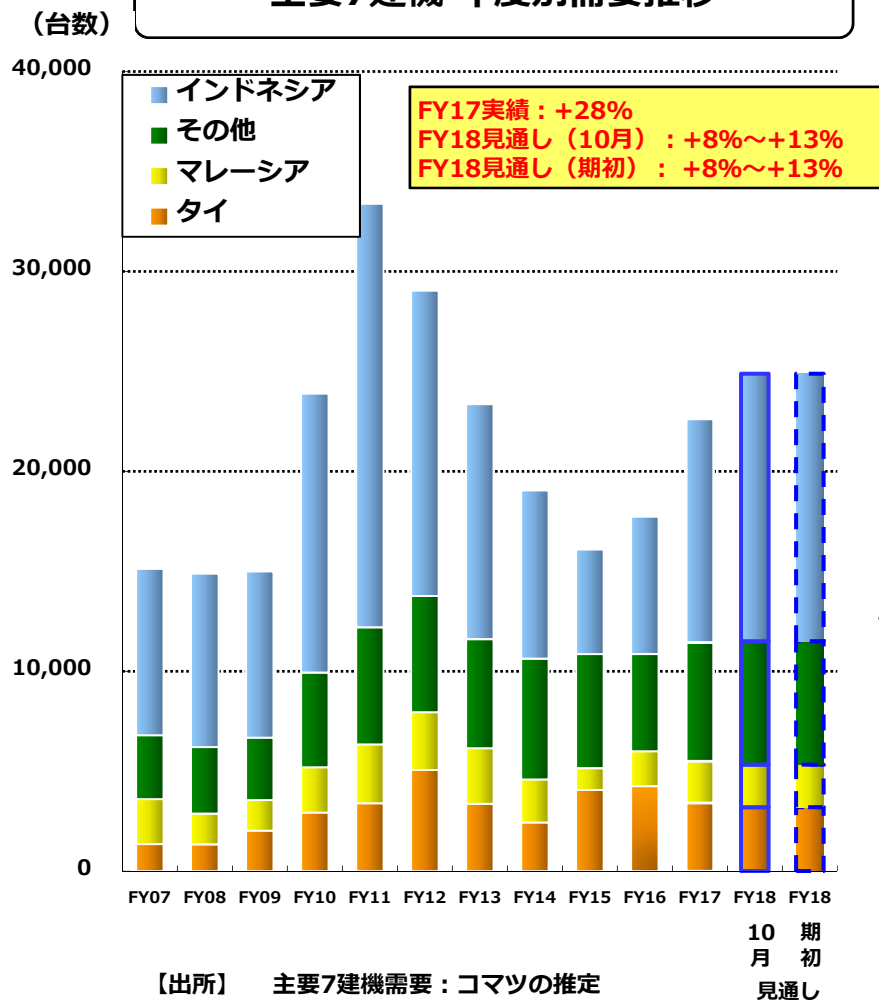
- ・ 2018年度第3四半期の需要は、前年同期比▲8%の減少。
- ・ インフラ拡大の方針が示されているが、中国市場の先行きの不透明感は継続。



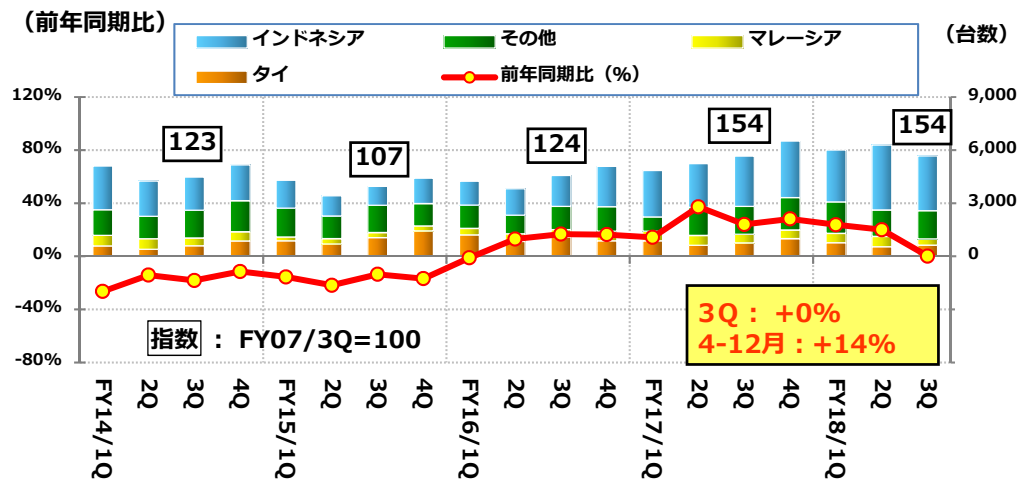
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ⑤ 東南アジア

- ・ 2018年度第3四半期の需要は、前年同期比横ばい。
- ・ 最大市場のインドネシア需要は引き続き増加しているものの、需要伸び率は鈍化。

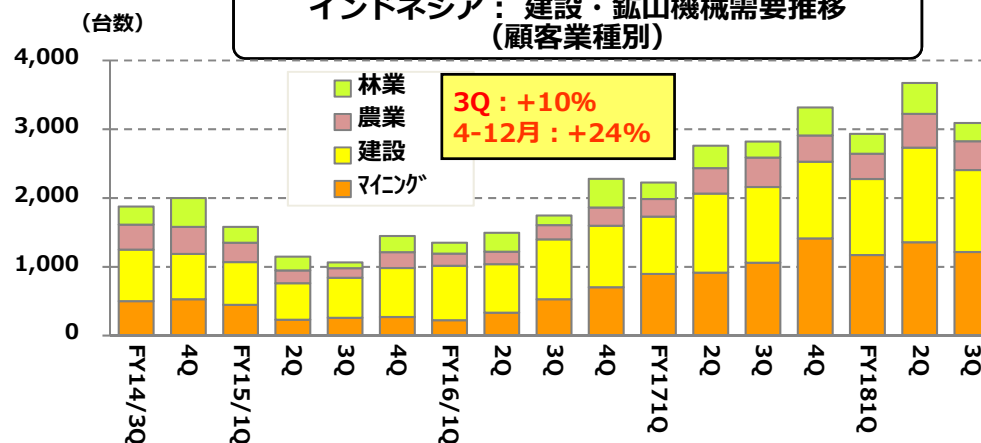
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



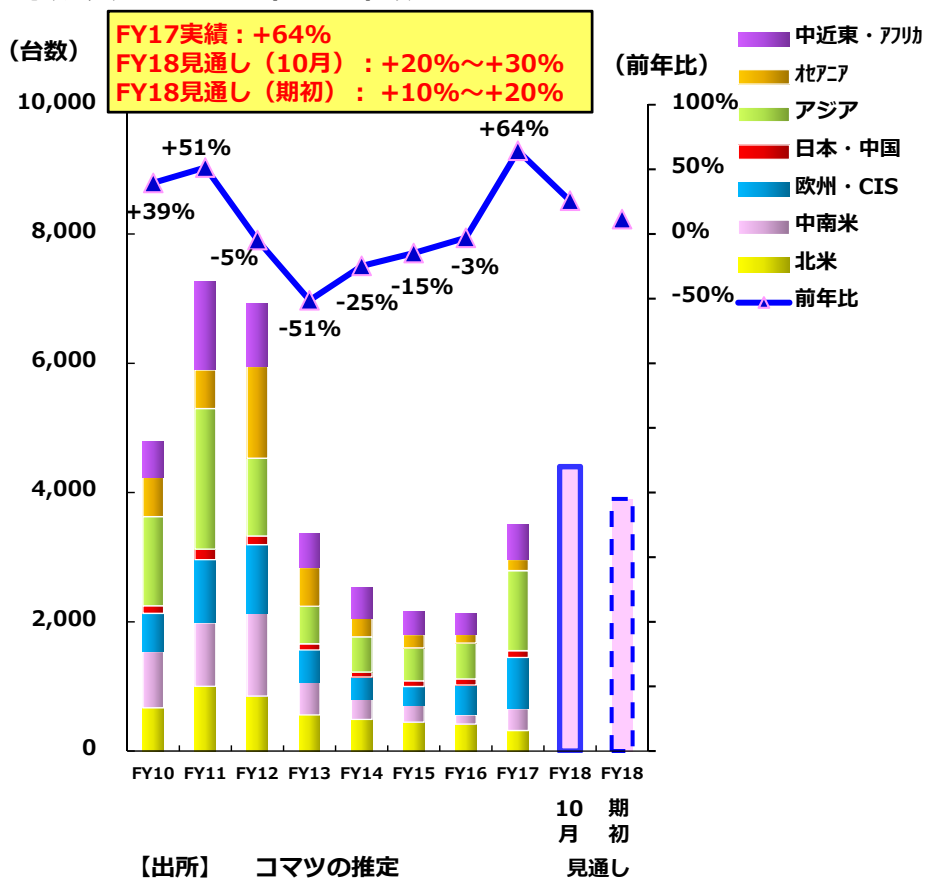
インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)



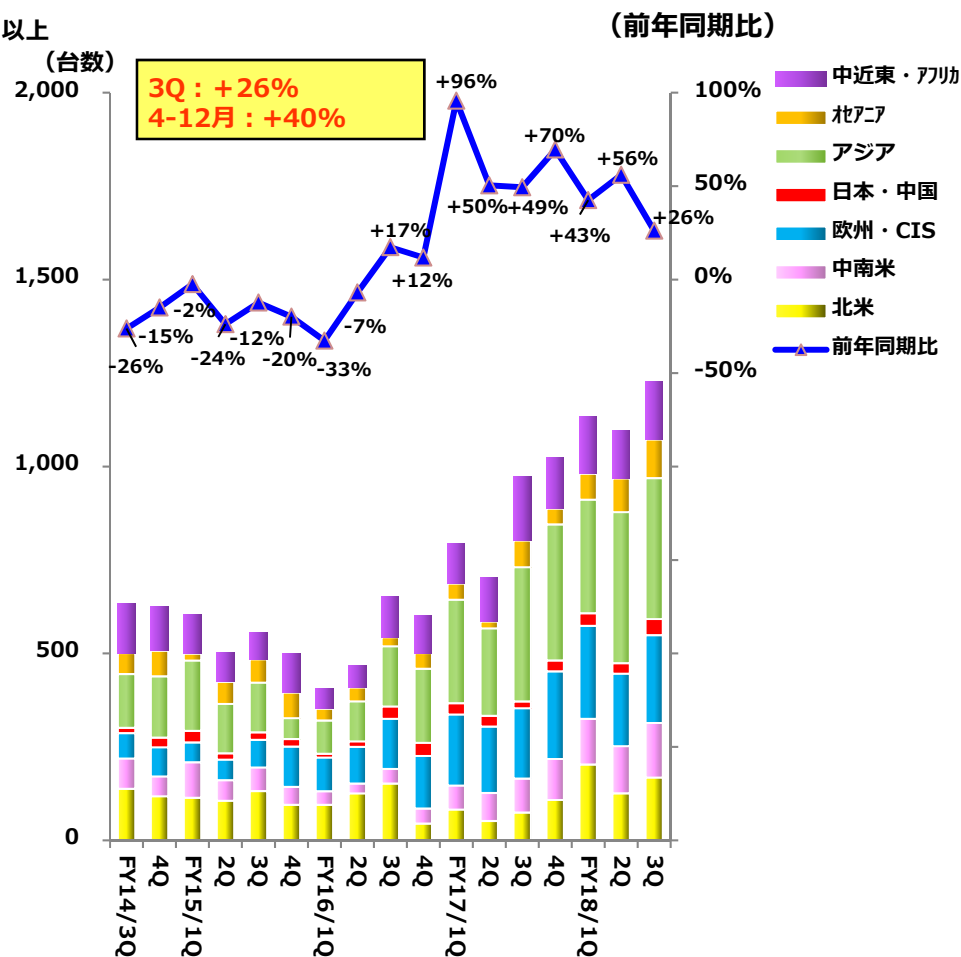
- ・2018年度第3四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+26%。
- ・北米、中南米、CIS、オセアニアなどの需要が伸長。

鉱山機械 年度別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブルドーザー：525HP (D375) 以上
- ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールダブ(機械駆動)：810HP (WA800) 以上
- ・モータグレーダー：280HP (GD825) 以上

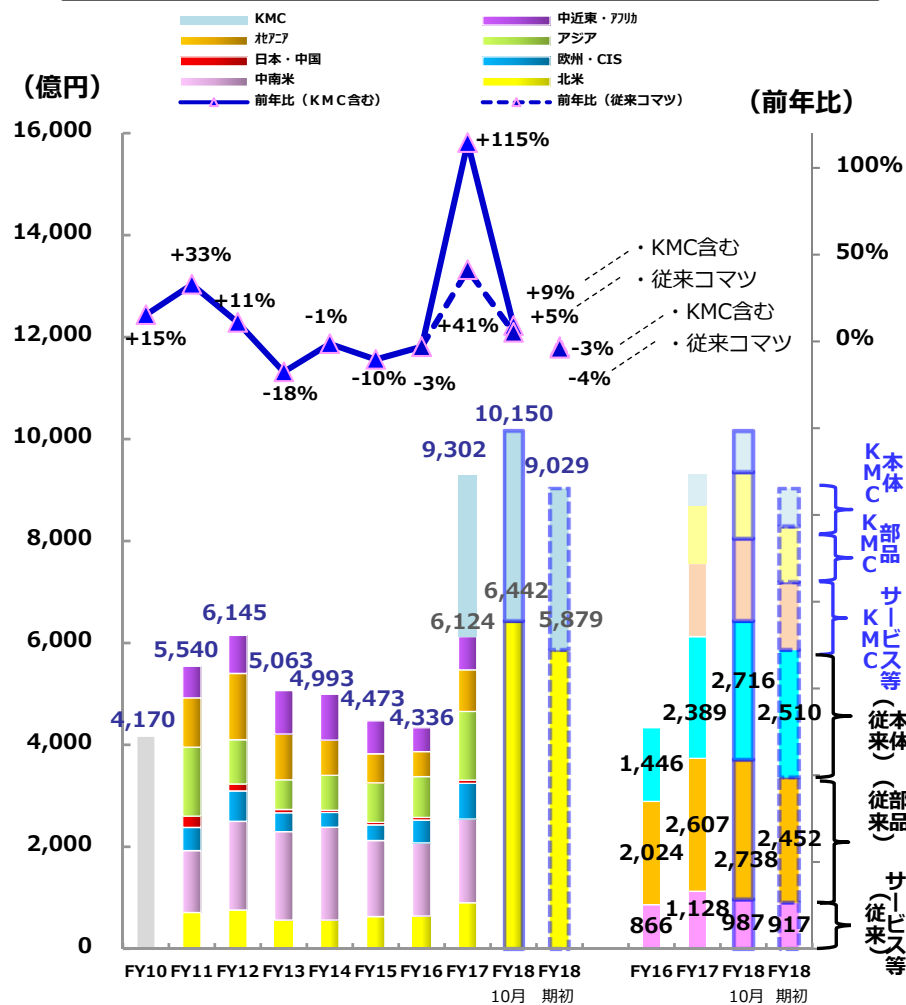


鉱山機械 四半期別需要推移

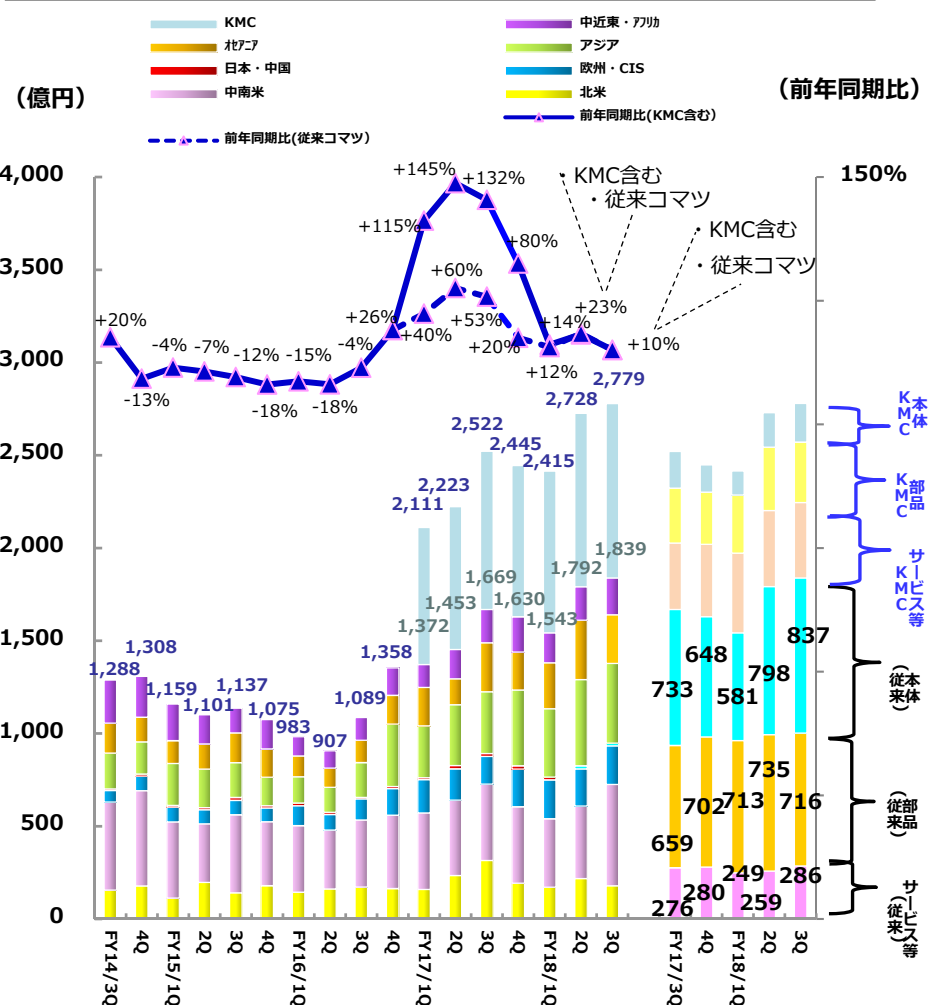


- ・ 2018年度第3四半期の売上高は、前年同期比+10%増の2,779億円。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+10%増の1,839億円。
- ・ 従来コマツのベースでは、中南米、インドネシア、CISなどで売上が伸長。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

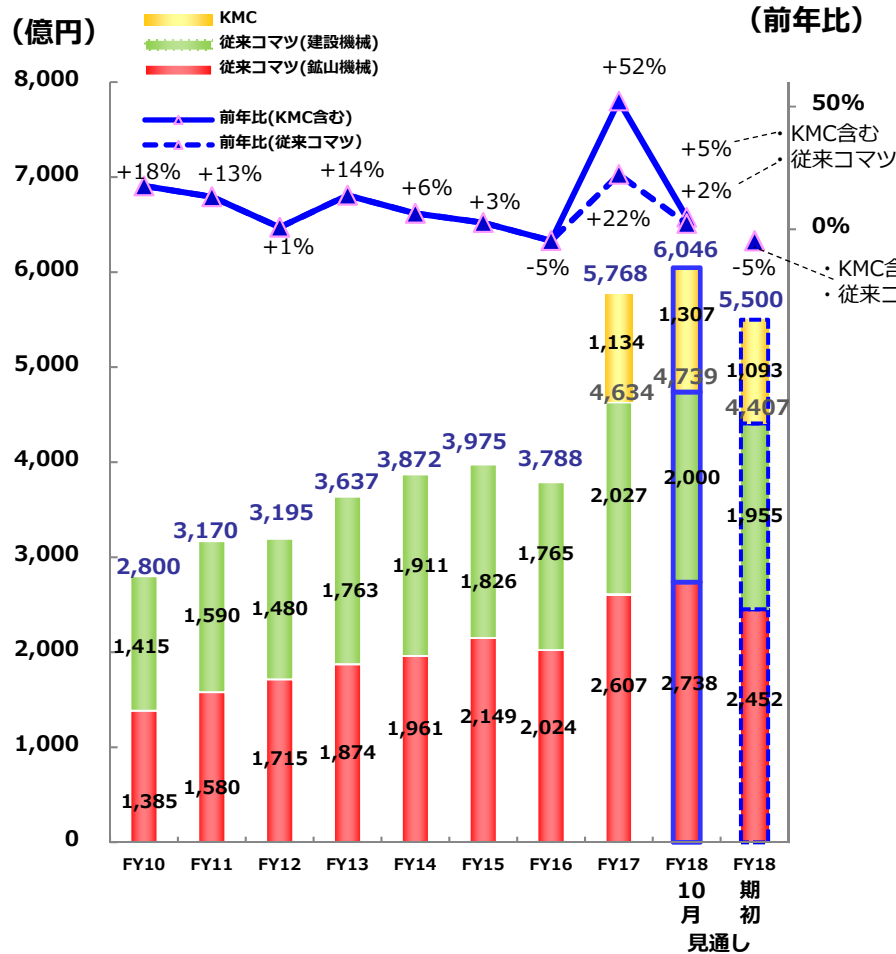


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

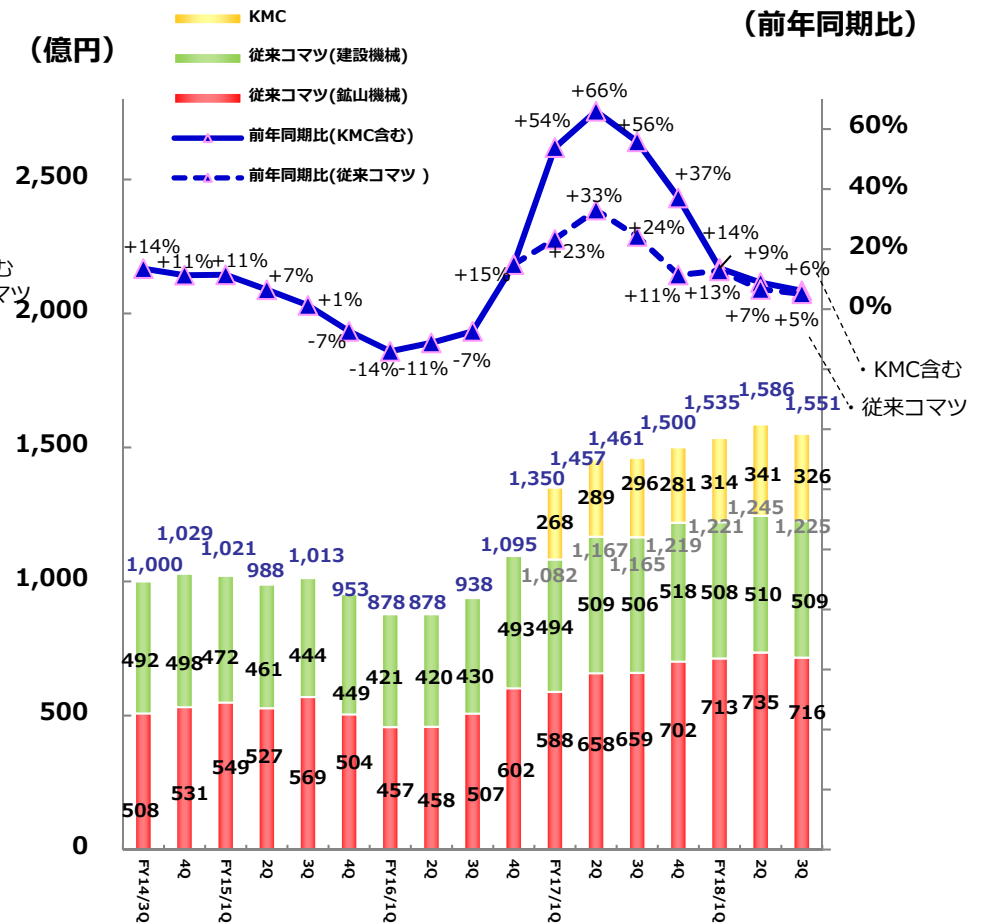


- ・ 2018年度第3四半期の部品売上高は、前年同期比+6%増加の1,551億円。KMCを除く従来コマツのベースでは+5%増加の1,225億円。
- ・ アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、前年同期比 売上高は伸長。

部品売上高



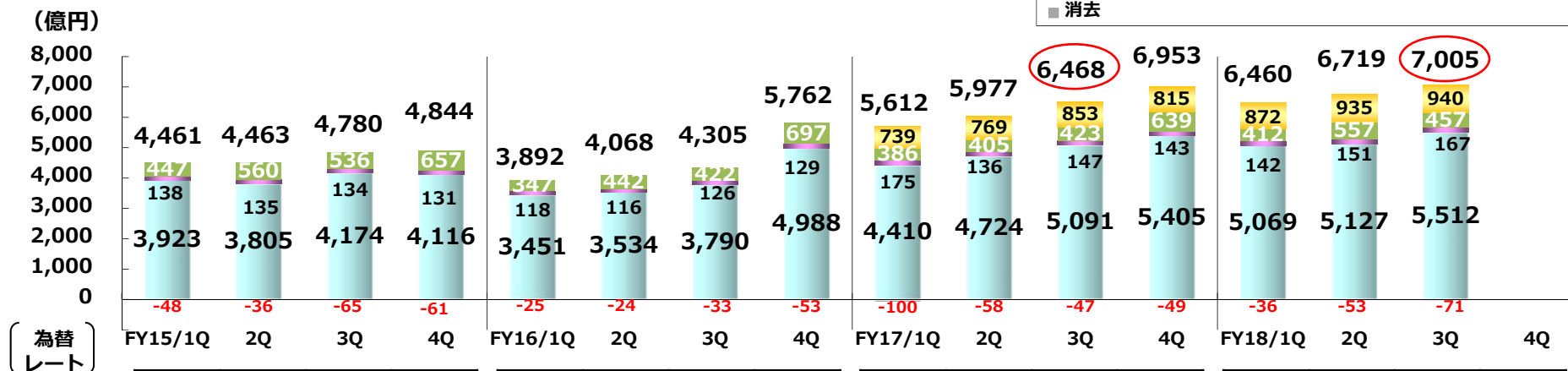
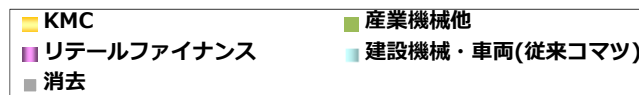
四半期別 部品売上高推移



参考資料

【参考資料】 四半期毎の売上高と営業利益の推移

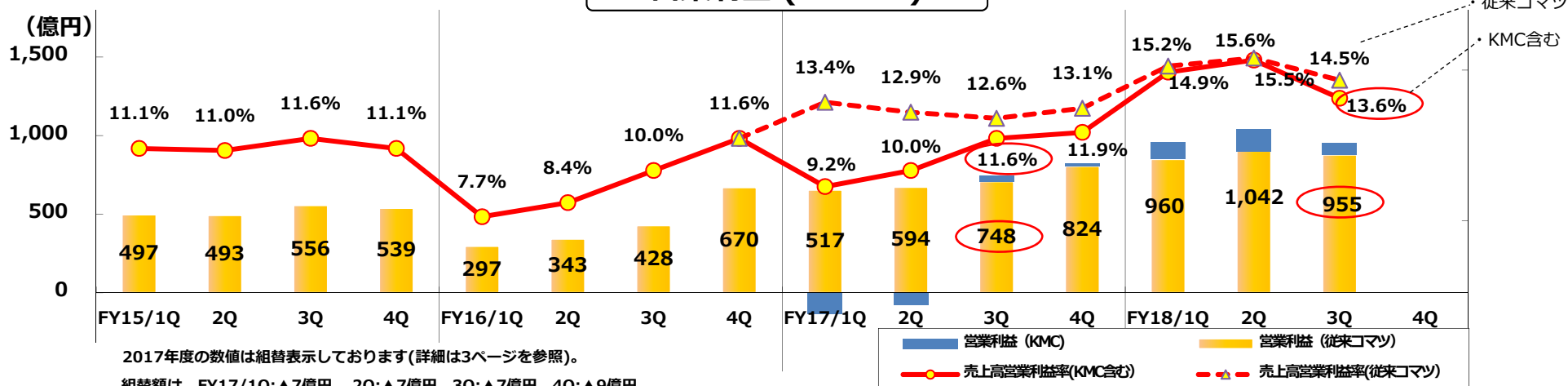
連結売上高 (FY15～)



為替
レート

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	

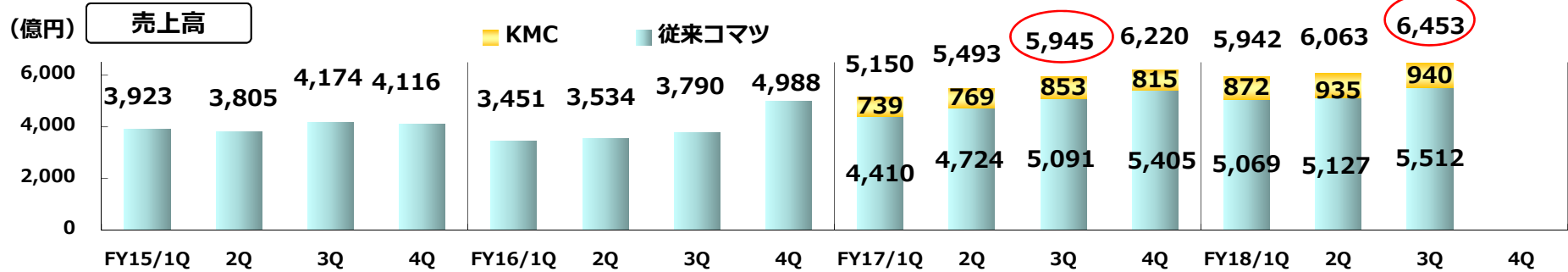
営業利益 (FY15～)



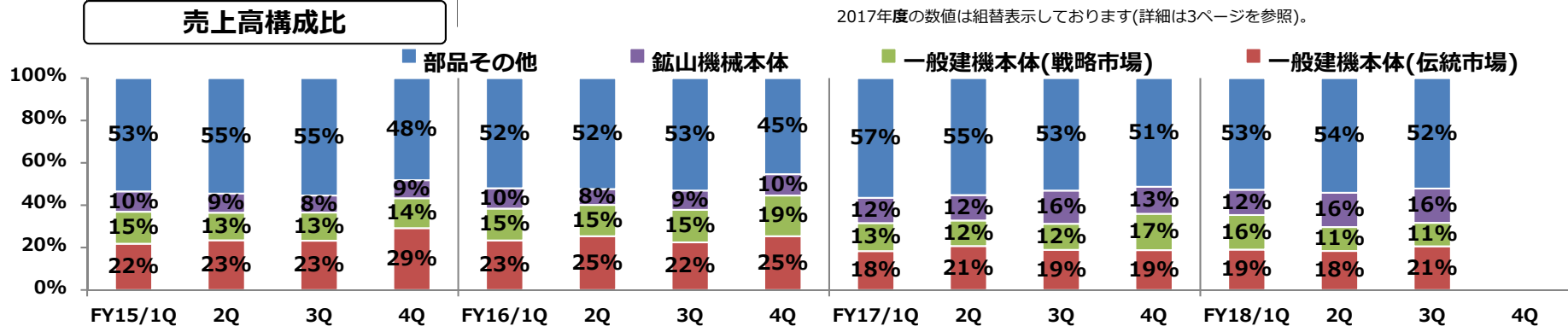
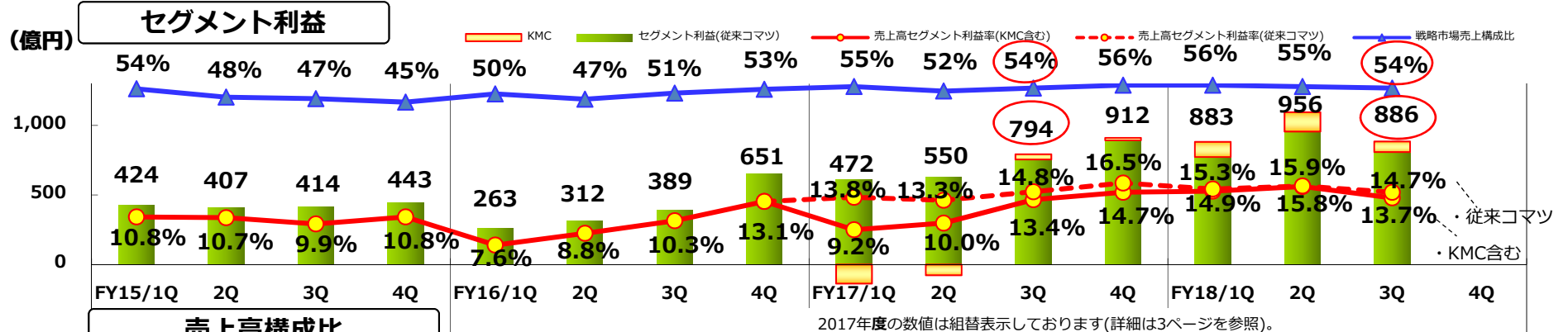
2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

組替額は、FY17/1Q:▲7億円、2Q:▲7億円、3Q:▲7億円、4Q:▲9億円

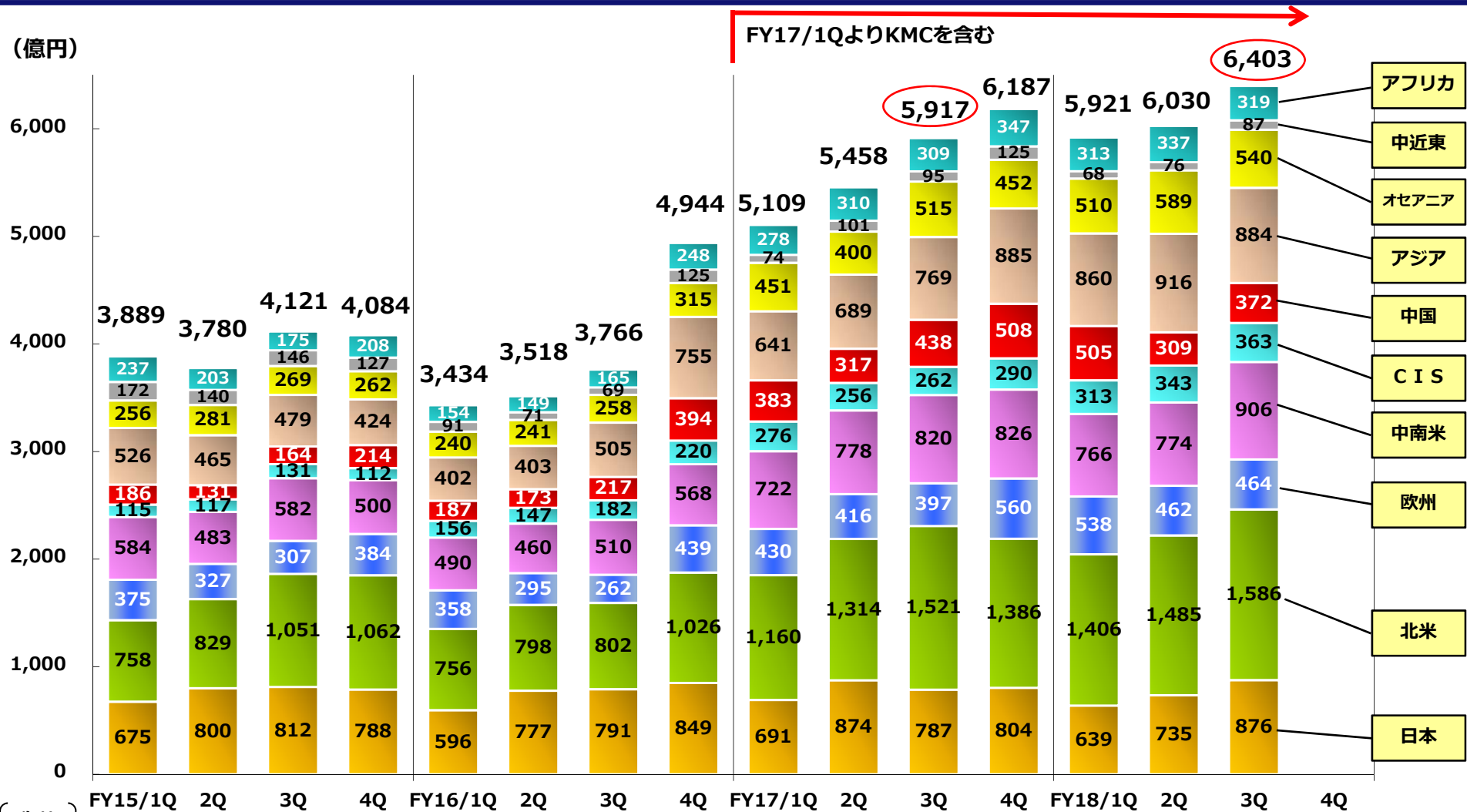
<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	

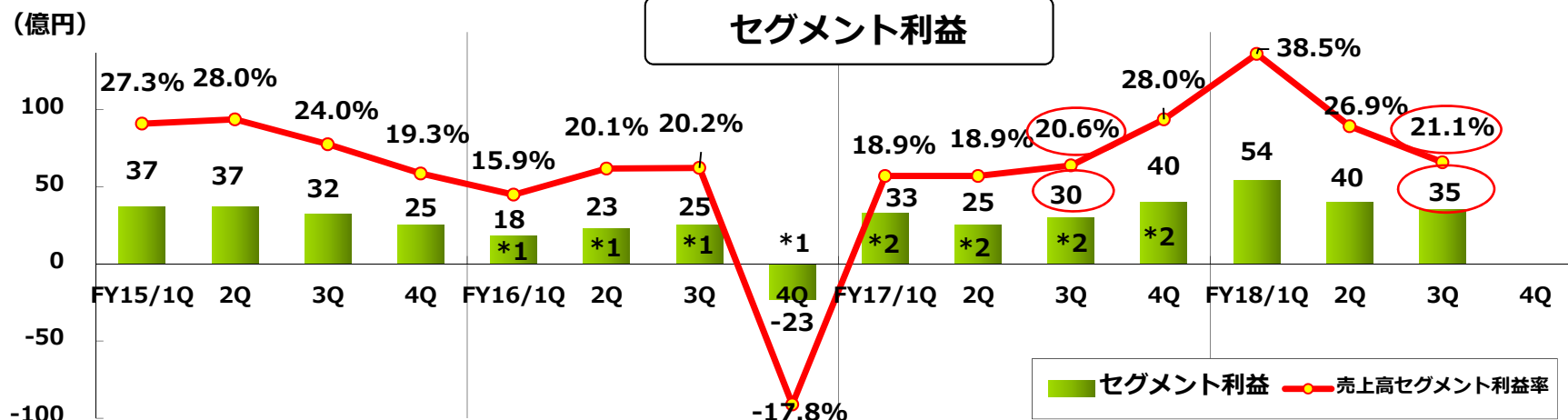
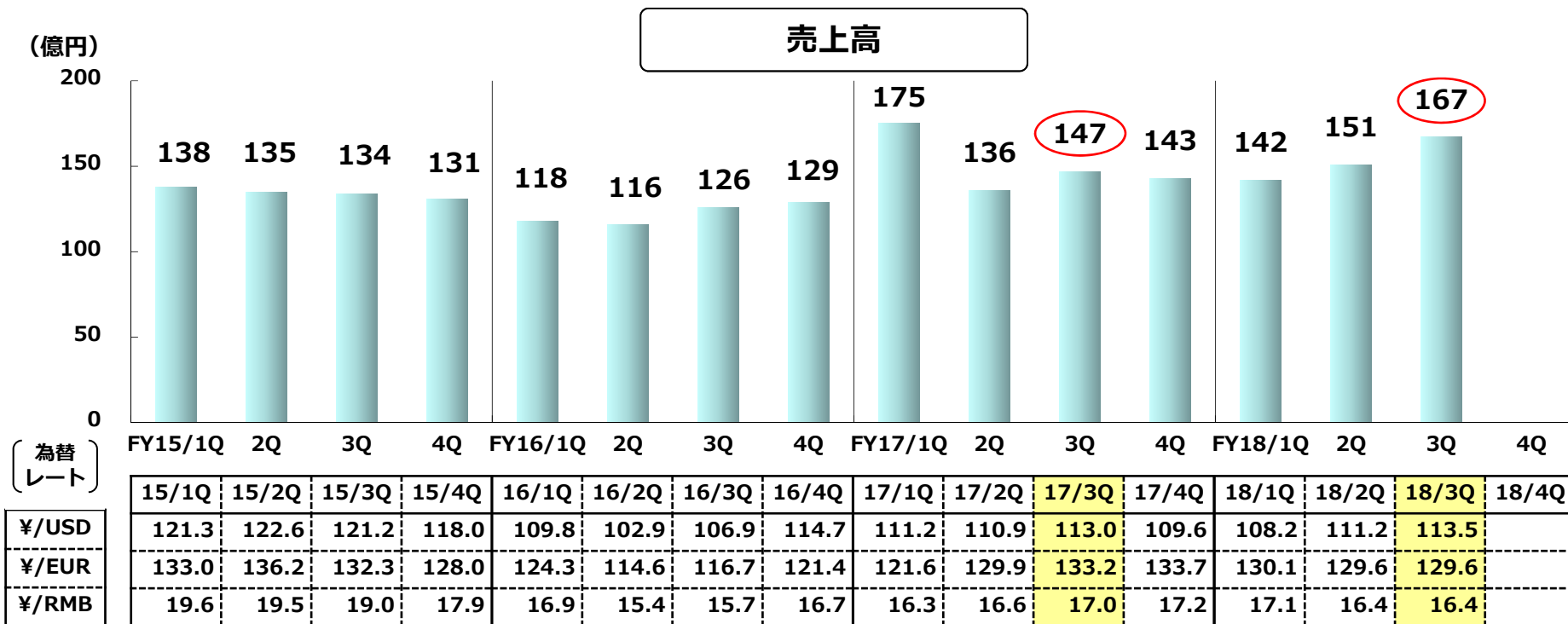


＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



為替レート

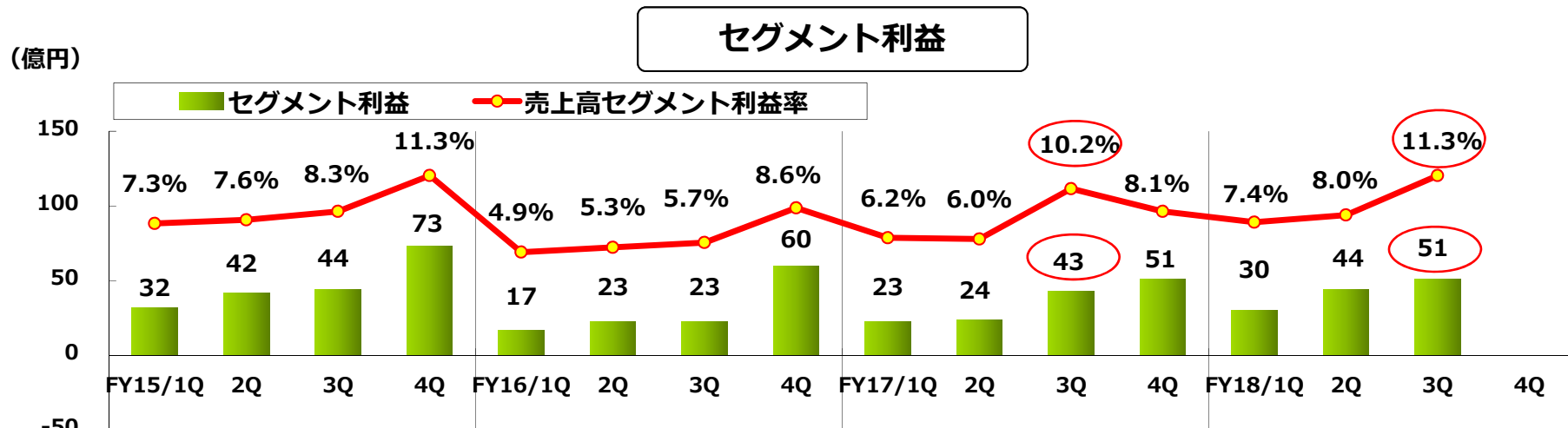
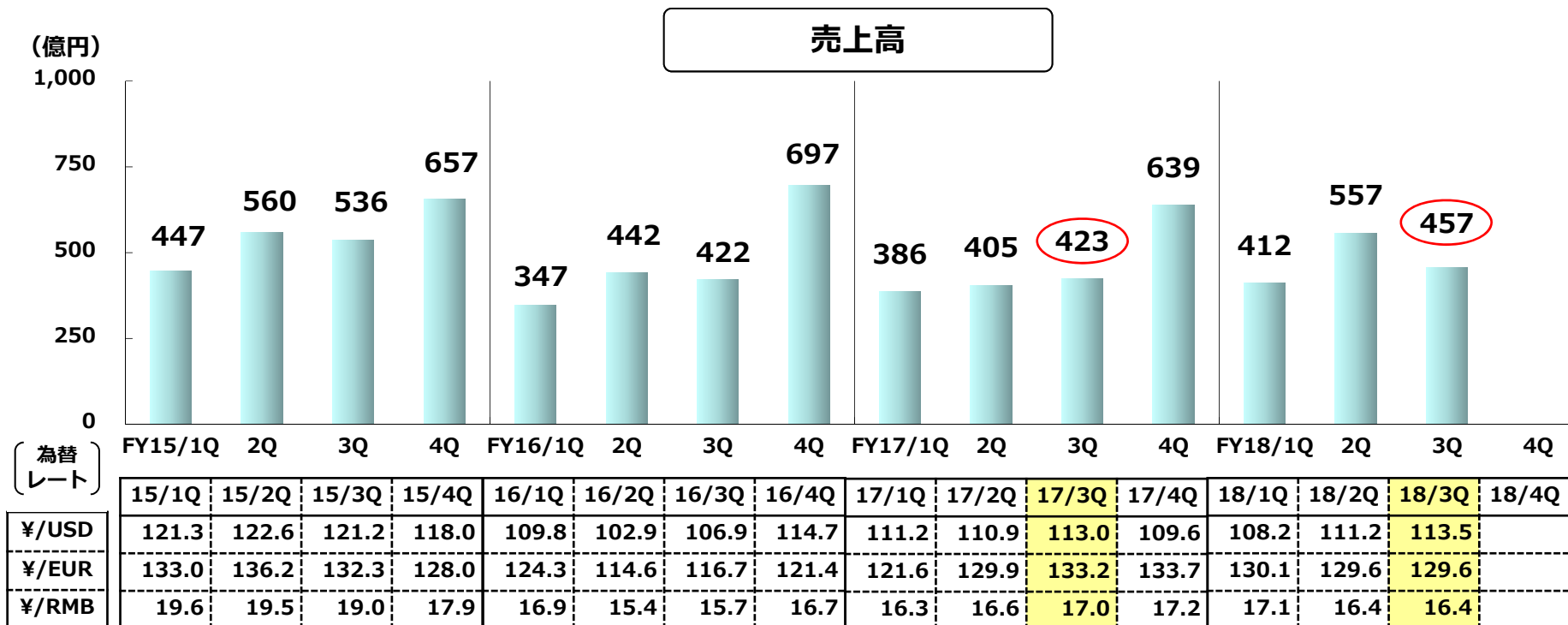
	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	



*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)

*2 2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

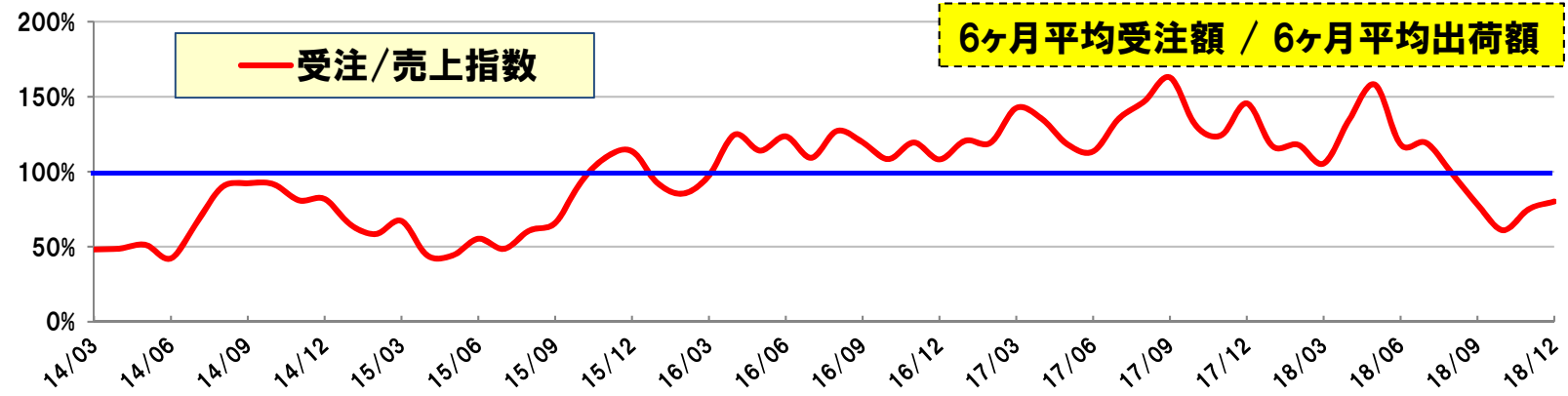


2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

鉱山機械（本体） 受注／売上指数（6ヶ月）

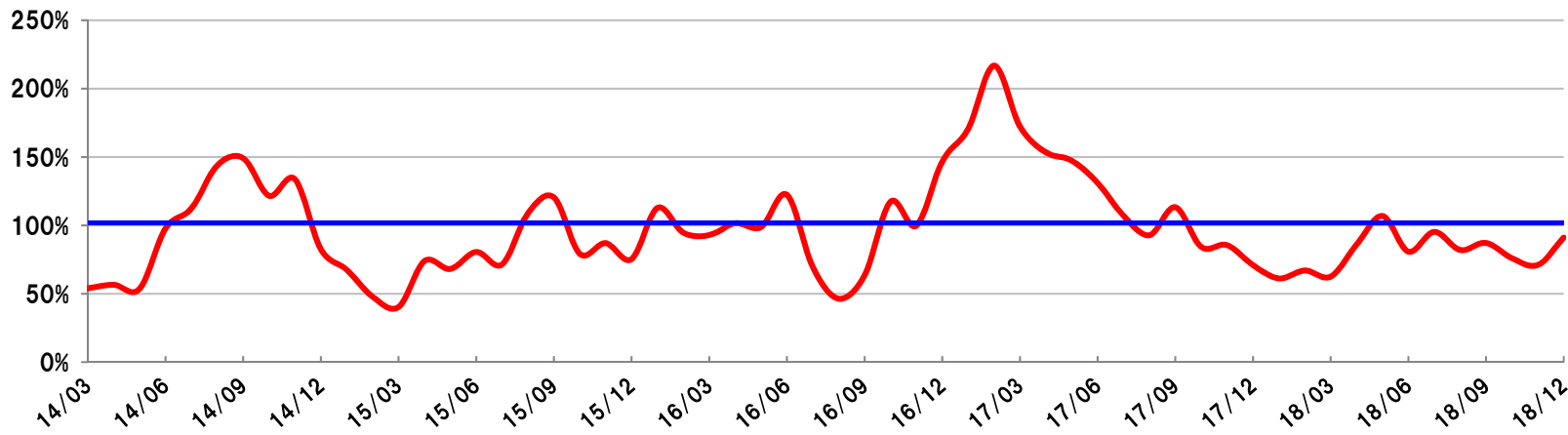
**コマツアメリカ
（マイニング）**

730E, 830E
860E
930E, 960E
980E



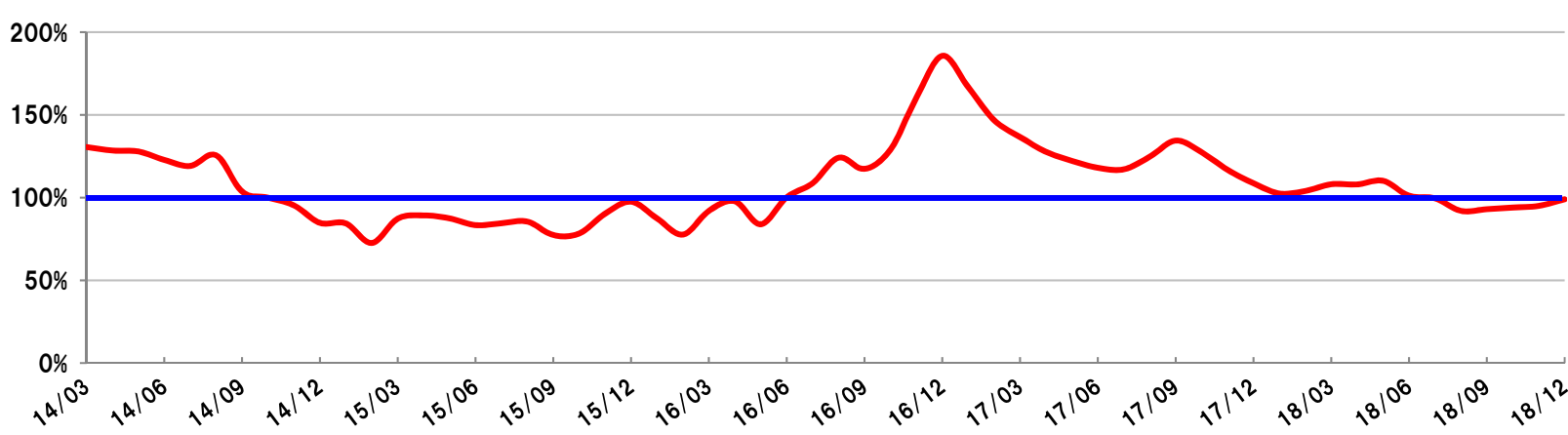
**コマツドイツ
（マイニング）**

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000

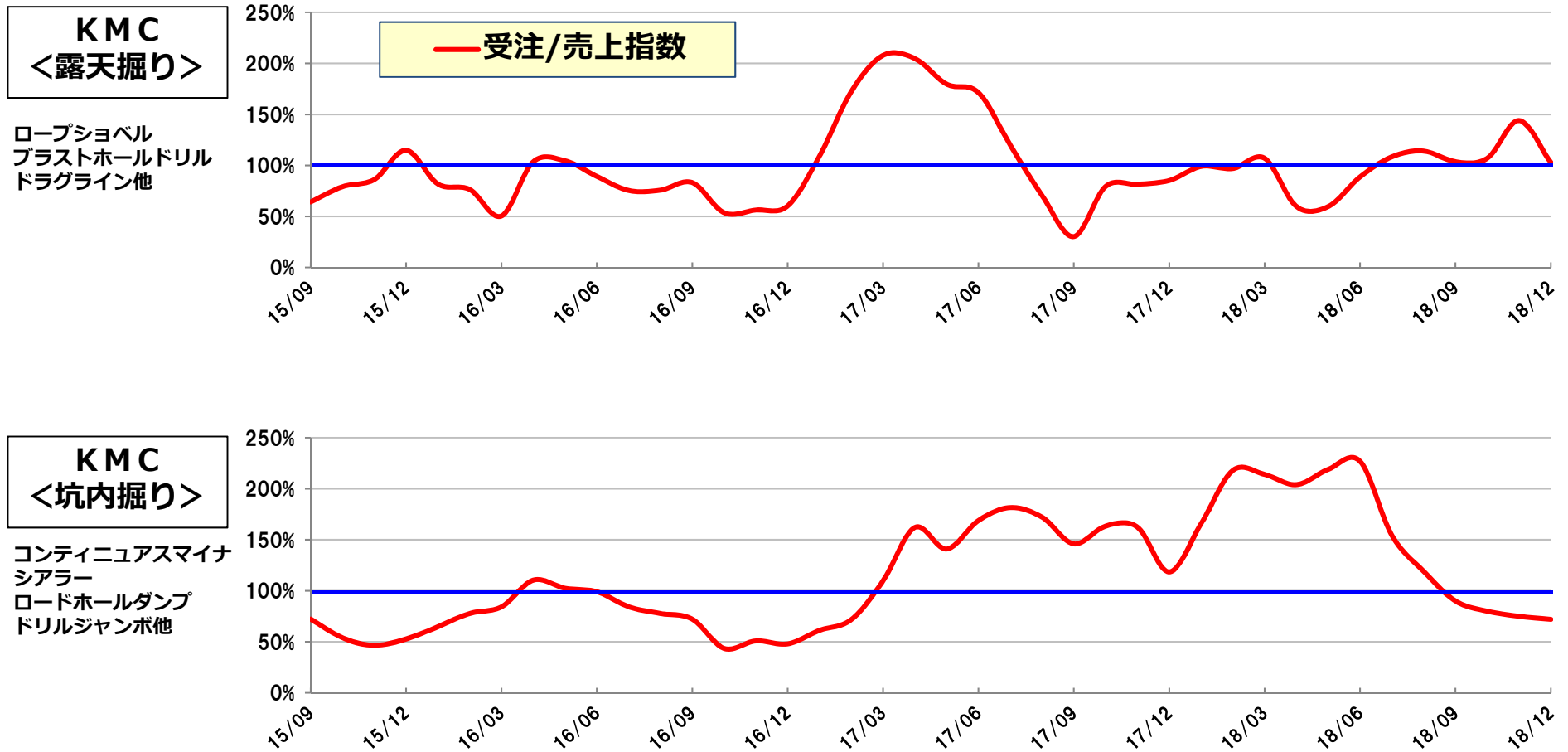


**コマツ単独
（マイニング）**

HD785, HD1500
PC2000, PC3000
PC4000
WA800 up
D375A up
GD825A up

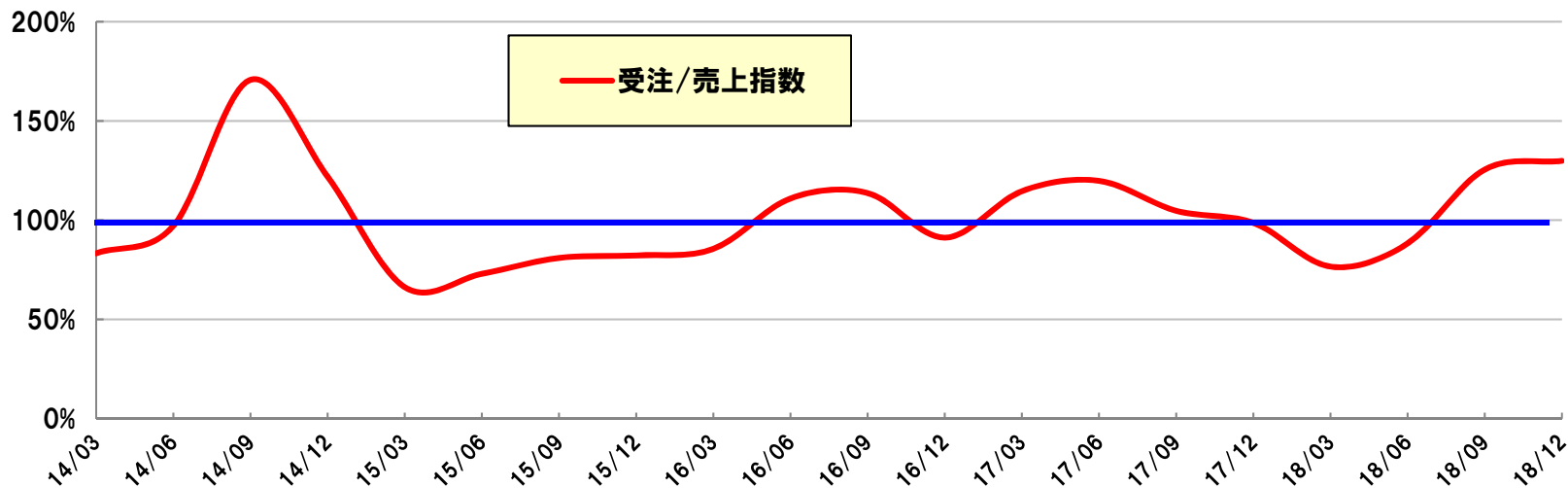


6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

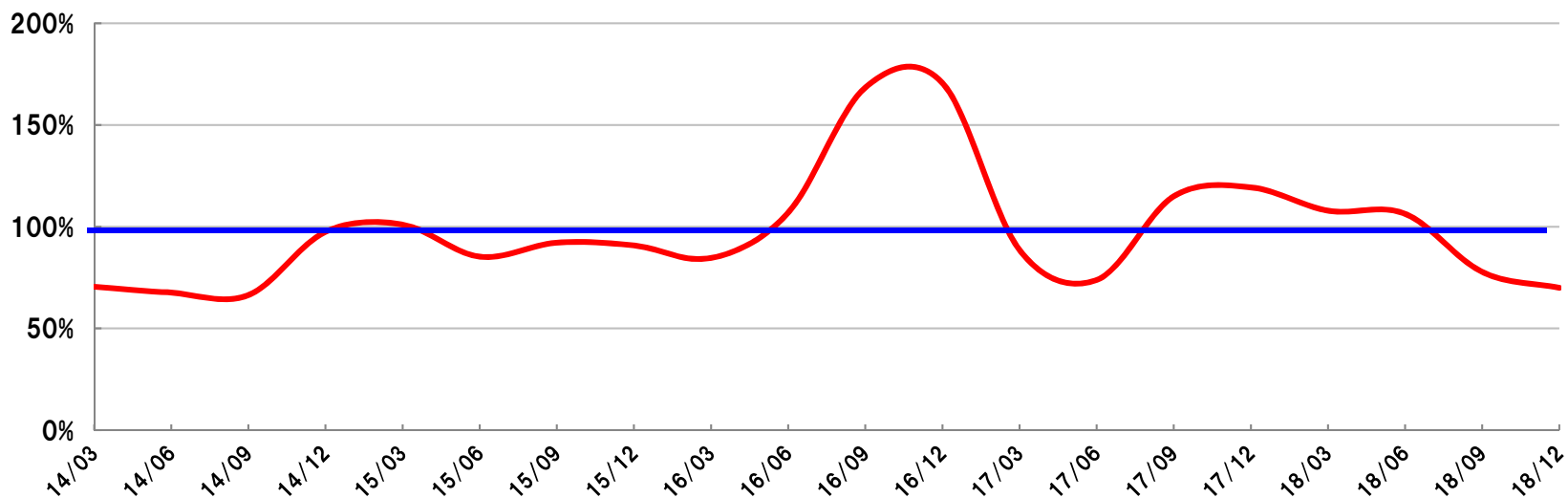


コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



コマツNTC
(除くワイヤーソー)



- ・コマツ産機は、2018年11月、米国アトランタで開催された北米最大の板金・鍛圧機械の展示会「FABTECH2018」に最新鋭の中型サーボプレスの紹介と3次元ファイバーレーザーの実機展示を致しました。
- ・コマツNTCは、2018年11月、東京ビッグサイトで開催された「JIMTOF2018 (第29回日本国際工作機械見本市)」に最新鋭の工作機械を出展しました。



「FABTECH2018」に実機展示した
3次元ファイバーレーザー加工機
「TLH510」



「JIMTOF2018」に実機展示した
プロファイル研削盤
「PX3560」

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。